

9860

第一號

陸軍次官東條英機殿

首題ノ件別冊ノ通送附ス

朝鮮機第一六九號

朝鮮軍諸施設希望要綱送付ノ件通達

昭和十三年十二月二日 朝鮮軍參謀長 北野 兼

陸軍省 陸軍部 防備課
 陸軍省 陸軍部 防備課
 陸軍省 陸軍部 防備課
 陸軍省 陸軍部 防備課
 陸軍省 陸軍部 防備課

一八七六號

陸軍省 昭和十三年十二月三日 防備課

陸軍省 昭和十三年十二月三日 防備課

陸軍省 昭和十三年十二月五日 防備課 290

陸軍省 昭和十三年十二月七日 防備課 第16號

陸軍省 昭和十三年十二月五日 防備課 13125 9-9

陸軍省 昭和十三年十二月八日 防備課 第17號

陸軍

9860



密第一〇三九號

朝鮮總督府時局對策調査會諮問答辯書送付ノ件

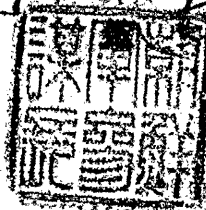
昭和十三年十二月五日 朝鮮軍參謀長 北野



陸軍次官 東條英機 殿

首題ノ書類十二月二日附朝鮮機第一六九號ヲ以テ送付セラル朝鮮軍機
殿希望要綱附録トシテ一部送付ス

13.12.14



陸軍

2860

軍事機密

朝鮮軍諸施設希望要綱

| | |
|--------|-------------|
| 調製部隊 | 調製年月日 |
| 朝鮮軍司令部 | 昭和十三年十一月二十日 |
| 紙數(表共) | 七拾參枚 |

朝鮮軍司令部

一、本要綱ハ軍中央部ニ要求スヘキモノ、總督府ニ要求スヘキモノヲ混交記述セリ而シテ未タ總督府ニ開陳シアラス即チ之カ取扱ヲ左ノ如ク豫定ス

一、本案各部門ニ對スル中央部ノ意向ヲ承知ス十二月中旬高級參謀上京ノ際回答ヲ煩シ度一參謀本部、陸軍省ノミ

二、同意ヲ得タルモノニ對シ總督府關係事項ヲ抽出シテ之ヲ總督府ニ移シ之ヲ要求ス

三、軍中央部ニ對スル要求ハ本要綱ニ依ルコトト承知セラレ度

四、徵兵問題ハ特ニ慎重ニ取扱ヒアリテ外部ニハ絶對ニ秘シアリ

一、本要綱ハ勿急ノ作業ニシテ校正不十分文意亦盡ササルモノアリ

緒言 目次

作戦準備

其一 前言

其二 大動脈ノ完成

A 空路

B 鐵道港灣

C 通信

D 結言

其三 資源

A 人的資源

B 動物的資源

C 軍需資源

軍備充實

一 前言

二 軍司令部強化

三 師團ヲ軍ノ編合内ニ入ルヲ要ス

四 軍兵事部民兵部設置

五 被服糧秣支廠設置ト軍倉庫強化

六 出師準備

防衛

一 前言

三 組織体系

三 施設

四 北鮮國境地帯ノ警備ニ就テ

五 結言

兵 役

一 朝鮮人兵役問題

二 徵募管區

三 在鮮部隊服役

其 他

一 衛生

一 獻金品業務ニ就テ

2-1660

演習費ニ就テ

人

...

...

...

...

...

...

...

緒言

作戰上朝鮮ノ重要性ニ關シ更メテ喋々ト要セス即チ軍備充實後ト雖内
 地兵團ノ作戰輸送莫大ナル軍需品ノ前送兵馬ノ大量補充輸送等其ノ主
 カハ朝鮮ノ土ヲ越エサルヘカラス殊ニ精駁ニ方リテハ關東軍ノ一翼ニ
 飛行大部隊ヲ集結作戰スルノ外海軍根據地ノ掩護鮮内兵團ノ戰鬥加入
 等關東軍ノ初期作戰ニ重大ナル役割ヲ演スルモノトス
 由來敵前ニ在ル關東軍ノ強化擴充ニハ上下舉リテ支援鞏固著々成果ヲ
 收メツツアルハ可ナリト雖前述ノ如ク緒戰ニ相當ノ役割ヲ演シ殊ニ持
 久總力戰ニ於テハ重要度斷然大ナル朝鮮ノ施設ヲ閉却セラレアル傾向
 ナシトセス
 宜シク鮮滿一體ヲ一眸ニ眺メ諸施設ヲ合理化シ以テ円滑ナル作戰ノ遂

行ヲ期スルコト肝要ナリ此ノ見地ニ基キ作戰準備軍備充實防衛兵役
等ニ願シ敘述スルコト次ノ如シ

作戰準備

其一 前 言

作戰上朝鮮ノ重要使命左ノ如シ

ソ本土ト大陸トヲ連接スル空陸ノ大動脈ヲ完成シ天然人爲ノ有ユル障

碍ニ對シ微動タモ感セサルモノヲラシメ且其ノ容量ヲ努メテ大ナラ

シム

2人的物的資源ヲ豊富ナラシメ作戰軍ノ組成ヲ容易ナラシムルト共ニ

全軍ノ補充補給ニ可及的協力ヲ爲ス

其二 大動脈ノ完成

A 空路施設

一、前言

朝鮮半島ハ航空交通ノ見地ヨリセハ大陸ト我本土トノ連鎖ヲ爲ス
 極メテ樞要ナル地位ニアリ而シテ某國ニ對シ決戰ヲ行フヘキ我陸
 軍航空ノ作戰飛行場ハ滿洲ニシテ之ニ向テスル航空兵力ノ迅速齊
 ヲナル集中コソハ實ニ勝利ヲ得ルノ最大要素ナルニ鑑ミ特ニ半島
 航空路施設ノ重大性ヲ痛感セサルヲ得ス將來空軍ノ大部ハ外地ニ
 駐屯スヘシト雖尙内地ニ相當兵力アリ且爾后ノ補充補給ノ大部ハ
 依然内地ヨリ行ハルヘキニ想到スルヲ要ス現事態ニ於テモ内地ヨ
 リ空輸補給量相當大ナリ

而シテ現下内外ノ情勢ハ朝鮮内ニ於テ内地航空部隊ノ迅速ナル集中輸送、緒戦ニ於ケル飛行大部隊ノ北鮮方面ヘノ集結動作戦ノ爾后ニ於ケル補給機ノ空輸及要地防空等ヲ圓滑ニ實施スル爲メ施設ヲ急速ニ完備スルヲ要アリ

然ルニ現在並ニ近キ將來ニ於テ實現モラルヘキ航空施設ヲ検討スルニ前述要求ヲ充足スル爲メ十分ト思惟シ難キモノアリ依テ左記事項ノ實現ニ邁進スルヲ要ス

左記

昭和十六年迄ニ民間航空施設ハ内地ト滿洲トヲ連絡スル主要幹線ヲシテ晝夜ニ亘リ各季節ヲ通シ概ネ七八噸級飛行機ノ離着陸ヲ爲シ得ル如ク飛行場ヲ整備スルト共ニ航空實施ニ支障ナキ如ク航

空通信、氣象觀測、無線航法、航空標識等ノ諸施設ヲ完備シ又作
 戰飛行場トシテ特ニ必要ナルモノハ軍部豫算ヲ以テ成ルヘク速ニ
 完成シ置クヲ要ス

以下各項目ニ就キ具体的ニ記述セントス

ニ飛行場

飛行場ハ左記ノ如ク其ノ整備ヲ促進スルヲ要ス

左記

一 咸興、清津、海州飛行場ヲ成ルヘク速ニ整備スルコト

二 新京城、大邱、咸興、清津、江陵各飛行場ニハ夜間照明及爲シ

得レハ地下燃料槽ヲ施設スルコト

備考

主要航空路ノ飛行場ノ現況並ニ施設計畫ノ豫算化シアルモノ
左表ノ如シ

| 飛行場名 | 整備 | 照明施設 | 防空(地下油槽) |
|-------|--------------------|---------|----------|
| 大邱 | 完成シアルニ | 十四年實施豫定 | |
| 京城(新) | 十六年三月迄ニ完成ノ見込 | 同上 | |
| 海州 | 十三年十月完成スルモ尙一部整備ヲ要ス | | |
| 江陵 | 十三年十二月完成見込 | | |
| 咸興 | 十四年中ニ完成見込 | | |
| 清津 | 尙整備ヲ要ス | 十四年實施豫定 | |
| 大田 | 十五年着手豫定 | | |
| 吉州 | 同 | | |

三 航空通信施設

前述航空路ニ於ケル飛行場相互間ノ通信、氣象情況ノ蒐集及飛行中ノ航空機トノ送受信等ヲ迅速ニ實施シ得ル如ク有線及無線通信施設ヲ擴充整備セラレ度

四 無線航法施設

無線航法施設ハ先ツ左ノ如ク實施セラレ度

ノ短波方向探知機ヲ左記區分ニ依リ成ルヘク速ニ完成セラレ度

第一次（遅クモ昭和十四年七月迄ニ）

京城、大邱、木浦、咸興

第二次（第一次ニ引續キ成ルヘク速ニ）

清津、江陵、鬱陵島、蔚山

五 夜間航空標識

夜間航空標識ハ左記ノ如ク必要トスルヲ以テ未建設ノモノ（○印）ヲ附ス。ヲ施設セラレ度

ノ 蔚山・大邱・京城・平壤・新義州線

○ 2 京城・咸興・清津線

六 氣象

凡ソ航空ノ實施ハ天候氣象ニ影響セララル所頗ル大ナルモノアリ故ニ航空氣象ノ觀測及之カ豫報業務ノ精密迅速ヲ期スル爲左記ノ如ク航空觀測機關ヲ速ニ整備擴充セラレ度

ノ 本府學務局所管ノ觀測所ヲ逡信局ニ移管スルニ依リ
歐洲諸國ニ於テハ最近航空機ノ發達ニ順應シテ氣象觀測ノ結果

最近多ク利用スルモ又ハ航空機ヲ本質ニ立脚シ氣象觀測ノ
 主体ヲ航空氣象觀測ニ置キ觀測機關ハ航空及通信ト等シク空軍
 大臣ニ隸屬シテリ

現在我國ニテハ航空ト氣象觀測機關トハ各隸屬系統ヲ異ニスル
 ヲ以テ業務遂行主動モスレバ円滑ヲ缺クヨリテ依テ航空ト密
 接不可分ノ關係ニアル通信ト同様ニ遞信局ヲシテ管理セシムル
 ヲ最適當ト認ム

又航空氣象機關ヲ整備シ擴充スルコト

總督府觀測所内ニ航空氣象係ヲ設置シ航空氣象(高層氣象ヲ含
 ム)ノ基礎的研究調査及之カ豫報ハ警報並實況ヲ報導ニ當ラシ

又地方氣象機關ヲ整備、擴充シテ航空氣象ノ觀測調査ニ遺憾ナ
カラシム

七 作戰飛行場

ノ 作戰飛行場トシテ中央部ヨリ動員當初急速整備ヲ命セラレアル
古城、穩城飛行場ハ成ルヘク速ニ所要ノ整備ヲ完了シ置クヲ要
ス

理 由

朝鮮ニ於ケル飛行場ハ土質特ニ良好オラサル限リ滑走路ノ鋪裝
ヲ爲スニアラサレハ解氷期ノ使用ハ困難ナリ、古城ノ如キハ水
田地帯ナルヲ以テ鋪裝セサレハ降雨后ニ於テモ使用困難ナルヘ

シ又國境ニ近接シアルヲ以テ風雲急ナル際所望ノ人員ノ發使
 用等モ意ノ如クナラス現在偵察並計畫ノミニ止メアルモ上述ノ
 如ク戰時交通ノ杜絶、危險區域ノ鮮人人夫ノ使用等ヲ顧慮セハ
 計畫ニ依ル工事ヲ實施シ得サル場合多シト判斷セラレ依ツテ主
 地買収ヲ行ヒ平時所要ノ工事ヲ實施シ置クト共ニ「ローラ」監
 視人等現地ニ整備シ置クヲ要ス

所要經費

古城飛行場

土地買収費 約六万五千円

整地費(番小屋ヲ含ム) 約十二万円

穩城飛行場

土地買収費 約六万円

整地費(番小屋ヲ含ム) 約十四万円

2. 軍用飛行場ノ位置左ノ如シ

| 海軍 | | 陸軍 | | | | | 陸 | | | 區分 |
|-------|-------|------|------|----|-------|----|---------|--------------------|-------------------|------|
| 濟州島 | 元山 | 穩城 | 古城 | 承良 | 會文 | 會亭 | 運浦 | 群山 | 平壤 | 飛行場名 |
| 完成シアリ | 完成シアリ | 計畫ノミ | 計畫ノミ | 同右 | 十四年完成 | 完成 | 十四年八月完成 | 完成 | 滑走路一本アリ | 整備状況 |
| | | | | | | | | 昭和十四年雨期以後常時使用シ得ル見込 | 解氷期ニ於テモ單機ノ離着陸ハナシ得 | 備考 |

3. 鐵道専用側線引込ノ件

會學火藥庫並飛行第六十五戰隊ハ専用側線ノ引込ナキモ戰時補給彈藥ノ増加、器材ノ運搬等ヲ顧慮セハ専用側線ヲ引込置クヲ要ス

所要經費

會學火藥庫

約二万円

飛行第六十五戰隊

概算六十五万円

4. 防空飛行場

(1) 新京城飛行場完成スルモ汝矣島練兵場ハ戰時ニ於テ防空及運

絡飛行場トシテ使用スルヲ要ス

(2) 釜山防空ノ爲メ同地附近ニ防空飛行場ヲ設定スルヲ要ス

B 鐵道 港灣

一 動員冷作戦輸送ノ見送ニ基ク朝鮮鐵道並港灣ニ關スル諸施設ニ就テハ軍中央部ニ於テ策定セル五ヶ年計畫ニ基キ昭和十一年度ヨリ著手シ著々進捗シアリ（時局ニ鑑ミ大田―龍山間ノ複線、京元、咸鏡線ノ增強ハ十三年度完成ニ繰上ケ且ツ龍山―平壤間複線ヲ十五年度完成トシテ追加シ既ニ著手セリ）

右五ヶ年計畫増補ノ爲更ニ十四年度追加要求シ目下總督府ニ於テ審議中ノモノ左ノ如シ

一 平壤―南市間複線（十六年度完成）
二 南市―新義州間ハ多爾島

鐵道ヲ利用ス

二 新義州―安東間複線橋梁（十六年度完成）

3 古茂山 - 清津間複線 (十五年度完成)

4 龍山 - 東京城間複線 (十五年度完成)

5 車輛増備並工場施設ノ促進 (五年計畫線上次ニ計画ノ完成)

6 通信線ノ増強 (十四年度完成)

7 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル工線ノ修繕ノ促進

8 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル二線

9 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル三線

10 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル四線

11 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル五線

12 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル六線

13 管内ノ諸般ノ野戰鐵道司令部用ニ必要ナル七線

大休止用倉庫建設ノ件

輸送停滞時ニ備フル爲釜山（六千人分）ニ大休止用建屋ヲ建設シ
平時之ヲ陸軍倉庫トシテ使用ス

理山ノ石油

今次ノ事變ニ伴フ鮮内通過部隊ノ實踐ヲ見ルニ釜山府民ハ通過部

隊ヲ連綿宿營ノ爲精神的並經濟的ニモ極度ニ疲勞困憊シタルヲ以

テ民家宿營ヲ緩和スルノ要アリ之カ爲六千人ヲ收容シ得ル「バラ

ツカ」ヲ構築スルヲ要ス

所要經費其他

所要經費ハ約五十萬圓トシ、樁築位置ハ釜山鎮軍用地並隣接埋立地ヲ借上使用ス

三、重要港灣私有埋立地取得ノ件

釜山、馬山、麗水、木浦、仁川等ノ私有埋立地ヲ軍用ニ供スル爲所要區域ヲ軍ニ於テ買收スルカ、軍ノ希望ヲ容ルル如ク總督府ヲ

シテ指導セシム

四、多獅島問題

多獅島ハ西鮮唯一ノ不凍港ニシテ水深適度流水少ク港灣ノ價値大ナリ朝鮮鐵路万一不通ノ場合之ヲ利用スル公算亦大ナルニ鑑ミ多獅島築港ノ擴大強化ヲ要望ス

五、鐵道主要幹線特ニ京城―元山―羅南―圖們線ニ沿フ國道ノ新設強

化

理由

鐵道障礙ニ伴フ輸送閉塞ヲ可及的緩和スル爲特ニ必要ナリト認ム

C 通信

一、前

在鮮通信施設ノ現狀ハ甚シク幼稚ニシテ重ク要求ヲ充足スル能ハ
ス過去日清日露兩役ノ慘廢ヲル戰史ヲ繰返スルニ總督府某局長
言ヲ以テスレハ「在鮮文化ハ明治四十年時代ニテ然ルニ今直チ
ニ昭和十三年ノ文化ヲ強要スルハ無理ナリ」云々或ハ然ラシク然レ
トモ「無理ナラシトシテ諦メ得ル文化人ハ以テ止ムベシ苟クモ

捕獲す

(四)短波(要スレハ長波)方向探知機ヲ北鮮ニ設置シ内地及北滿

ニ固定設置セラルヘキ此ノ種施設トノ統一運用ニヨリ極東蘇

領内ノ電波位置ヲ偵知ス

(ハ)大電力妨信機(短波並長波)ヲ北鮮ニ設置シ有時ノ際隨時敵

電波ノ制壓ニ任セン

四其他ノ通信施設

海底線切斷ノ場合又願慮シ自動装置ニ依ル不可視光線等ニヨリ朝

鮮海峡ノ連絡ヲ確保ス

五以上ノ諸施設ヲ急速ニ實施シ得サル場合ニアリテハ軍ハ其任務達

成上別紙要圖ノ如キ通信施設ヲ最小限度ノ要望トシテ之ヲ實現

ニ努力スル概算四千万円
六第五號別紙要圖ニ關スル細説左ノ如シ

(一) 有線電話網

鮮内既設電話網ハ現ニ民間各方面ノ需要ヲ十分ニ充足シ得サルヲ以テ單ニ於テ要望スル同線ヲ之レヲ便乘セントスルハ不可能ナリ故ニ悉ク新設ヲ要スルモノトス

(1) 防空電話網

京城並羅南ヲ中心トシ夫々各警視隊本部ニ直通ノ一回線ヲ特設シテ情報送受信機ヲ裝置スル専用同線トナシ更ニ京城ヨリ全鮮各道廳ニ對シ直通一回線及羅南ヨリ別ニ咸鏡南北兩道廳ニ直通一回線ヲ何レモ特設シ警報傳達用ノ専用トサスヲ要ス

緊急國防ノ重責ヲ自覺シ非常時突破ニ焦厲スルモノハ渾身ノ勇ヲ以テ盤根ヲ剪除シ先ツ交通行政交通施設ノ促進ニ努力セサルベカラサルモノト信ス而シテ軍ハ有線施設ヲ主トシ無線其他ノ施設ヲ併用シ以テ敵ノ凡有破壊工作ニ對シ主要幹線ノ連絡ヲ確保スルヲ要ス之レカ爲努メテ遞信當局並國策會社ヲ利用スルモ止ムヲ得サレハ軍自カラニ於テ緊急施設ヲナス

二、有線通信施設

ノ日滿連絡幹線ノ擴充強化

釜山—京城—安東線

釜山—京城—南陽線

地下ケーブル線

ニ、鮮内施設ノ擴充強化

防空、防衛ノ爲鮮内要地間ノ迅速ナル連絡施設並兵站業務ノ爲緊密ナル連絡施設

三 無線通信施設

1. 防衛ニ關スル軍通信ノ整備充實

龍山ヲ中樞トスル釜山、羅南其他ノ要塞等軍事要地間ノ連絡確保並海軍機關トノ連絡維持此際羅津要塞ノ重要性ニ鑑ミ別冊ノ如ク特ニ平時ヨリ無線電信所ヲ新設スルヲ要ス

2. 大電力放送無線施設ノ擴充

宣傳並謀略ノ爲大電力放送無線局ヲ京城、清津ニ設置ス

3. 電波戰施設ノ新設

(1) 大規模ノ傍受機關ヲ羅南ニ設置シ極東蘇領ノ發信電波ヲ悉ク

現行ノ防空監視通信網ハ其何レモ多數ノ交換機ヲ經由シ而モ
 二、三回線ニ對シ十數種ノ此種通信互ニ優先ヲ爭ヒテ錯綜ス
 ル狀況ニシテ若干遠隔シ交換機四ヶヲ經由セル處ニアリテハ
 傳達ノ爲二十分内外ヲ要シ防空通信トシテソノ價值ヲ全ク失ス
 ルニ至ルモノ多キ實情ニアリ
 故ニ此種施設ハ實ニ莫大ナル作業ヲ要スルモノナリト雖モ其
 通信網ノ本質上軍民一體協力ノ主旨ニ基キ善處スヘキモノナ
 ルヲ以テ公衆電話網ノ擴充ニヨリ此ノ目的ヲ達成スル如ク指
 導ノ要アリ

(四) 防衛用電話網

防衛ニ關シテハ軍ハ内地及滿洲方面トノ密ナル連絡ヲ要スト

雖キ該通信ハ有線電信ニ依ルヲ技術上至當トスルヲ以テ電話網ハ鮮内防衛機關ヲ運用シ得ルヲ以テ足レリトセサルヘカラス而シテ之レカ爲ニハ更ニ北鮮方面ノ獨自ノ特種性ニ鑑ミ此ノ方面ニ於テハ羅南會寧等ヲ中樞トスル局地回線ヲ必要トシ其他ノ地域ニ於テハ概ネ京城ヲ中樞トスル各防衛機關トシ直通通回線ヲ必要トス

而シテ此種通信網ハ其特性上軍ニ於テ専用スルコト絶對ニ緊要ニシテ公衆電話網ノ擴充ニ伴ヒ之レカ回線ヲモ加味シテ増設スル如ク指導ヲ加フルヲ要シ若シ止ムヲ得ザレハ軍ハ其任務ニ鑑ミ獨自ノ立場ヨリ軍自体ニ於テ構成ヲ考慮セサルヘカラス

之レカ爲其回線ハ眞ニ止ムヲ得サル最小限度トシ各方面一回線ヲ以テ満足セサルヘカラスサルモノトス此ノ際特ニ北極國境方面憲兵増加ニ伴ヒ羅津ヲ中心トスル國境方面ノ警備用電話網ノ神速ナル擴充強化ヲ要ス

(ハ) 兵站用電話網

兵站通信網ノ主要回線ハ寧ロ電信回線ヲ有利トスルヲ以テ電話ハ一回線ヲ以テ満足セサルヘカラス

(ニ) 航空用電話網

廣大ナル地域ニ分散配置セラレアル多數ノ航空機ヲシテ分秒ヲ争ツテ一齊ニ活動セシムル爲此種通信網ノ完備ハ絕對ニ

必要ニシテ之レカ爲ニハ各機關ヲ連絡スルニ回線ヲ必要トスルハ最小限度ノ要求ナリ而モ此ノ種回線ハ平時ヨリ常ニ活用セラルルモノニシテ平戰兩時ヲ問ハス軍ニ於テ専用セラルヘキモノナルヲ以テ狀況眞ニ止ムヲ得サル場合ニアリテハ軍自カラ之レカ構成ヲ企圖スル要アリ

以上ノ如ク軍用電話通信網中防空及兵站用ハ平時其大部ヲ公衆通信ニ依存シ狀況之レヲ要スル時隨時之レヲ優先使用又ハ專用シ得ル如ク施設シ防衛用並航空用ハ常時之レヲ軍ニ於テ專用シ得ル爲要スレハ軍自カラ之レカ施設ヲ考慮セサルヘカラス

三有線電信局

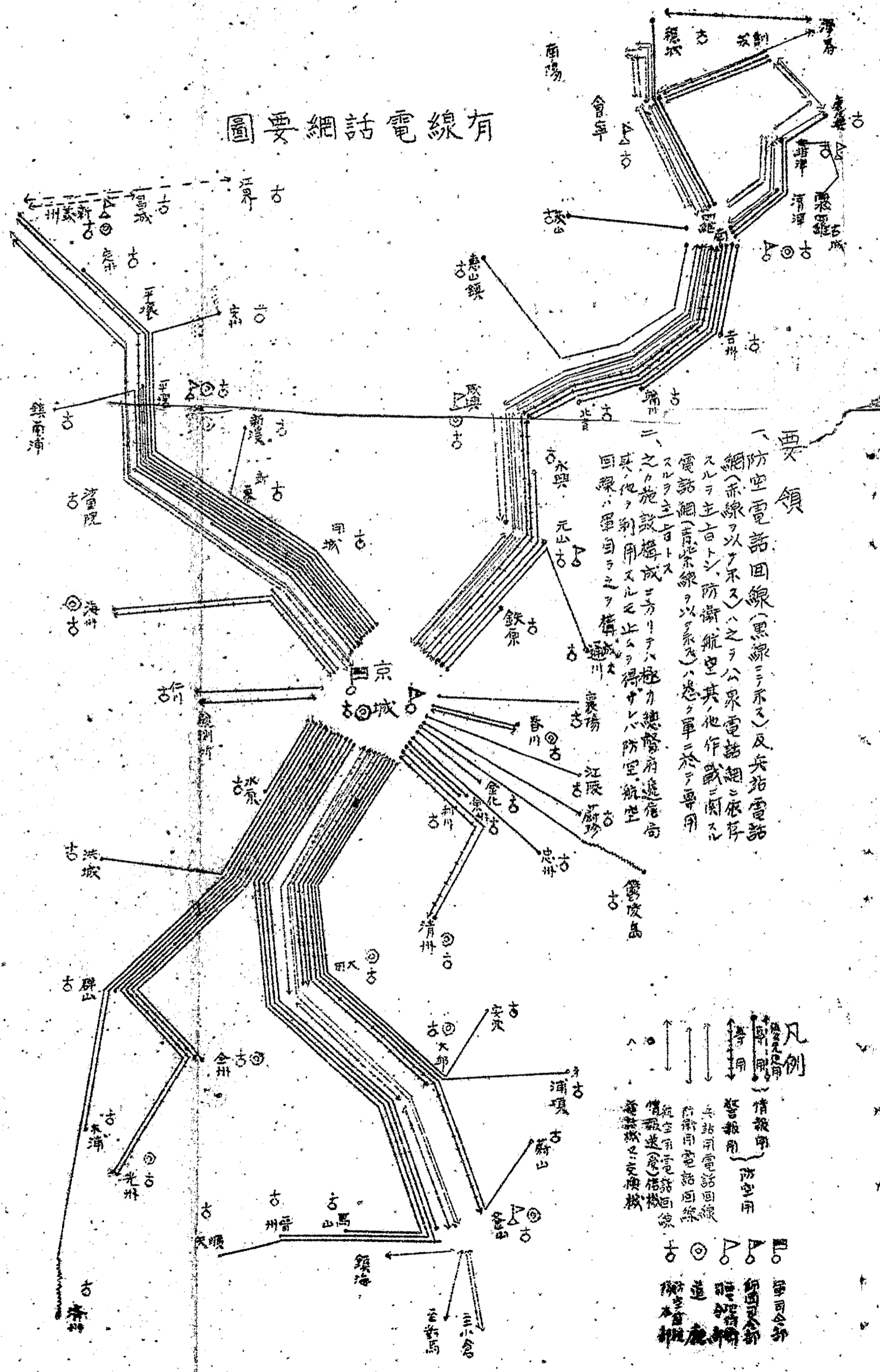
有線電信網ノ施設亦有線電話網ノ施設ノ如ク極メテ不完全ナル状態ニアリ

而シテ此種通信網ハ關東軍方面ヨリ内地ニ對スル相當大ナル直通通信ヲ緊要トスルハ明カナレトモ其數量ハ滿洲方面ノ大作戰ノ爲兵團ノ數及其内容ニヨリ著シキ差異アリ今之レヲ過去戰役ノ經驗ニ鑑ミ概算スルニ恐ラク數十回線ヲ要スヘク斯ノ如キ回線ハ地下ケレブルニヨル多重通信法ニ依ラサレハ解決ノ見込ナキヲ以テ之レヲ別途ニ考慮セララルモノトシテ今茲ニ於テハ軍自体ノ立場ニ於テ軍カ作戰上緊要トスヘキ京城ヲ中樞トスル關東軍及内地トノ連絡回線及軍カ鮮内部隊ヲ指揮シテ任スヘキ防衛ノ爲ノ回線並兵站回線等ニシテ前述セル電話回線網ヲ以テ流用シ得サル緊要ナル

電信回線ヲ示セハ別紙第二ノ如シ
三、軍用無線通信網

朝鮮カ内地ヨリ大陸ニ向フ大動脈ニシテ京城カ其中樞ヲ構成スヘ
キ地勢上ノ特質ニ鑑ミ大電力無線電信施設ノ設置ハ當然考慮セラ
ルヘキ問題ナルノミナラス鮮内地形ノ電波傳播ニ有利ナラサル特
性ト敵空襲ニヨル有線通信ノ障碍大ナルヘキヲ豫期セララルトニ
鑑ミ鮮内外ノ無線連絡施設ノ擴充強化ハ極メテ緊要事ナリトス

有線電話網要圖



要領

一、防空電話回線（黒線）及兵站電話網（赤線）は（不慮）ハ之ヲ公衆電話網ニ依存スルヲ主トシテ、防衛、航空、其他作戦ニ關スル電話網（青線）ヲ以テ系統ハ悉ク軍ニ於テ專用スルヲ主トス。

二、之ヲ施設構成ニ方リテハ、極力總務府、逓信省、其他ヲ利用スルモ止マラズ、得テハ、防空、航空回線、軍自ラ之ヲ構築ス。

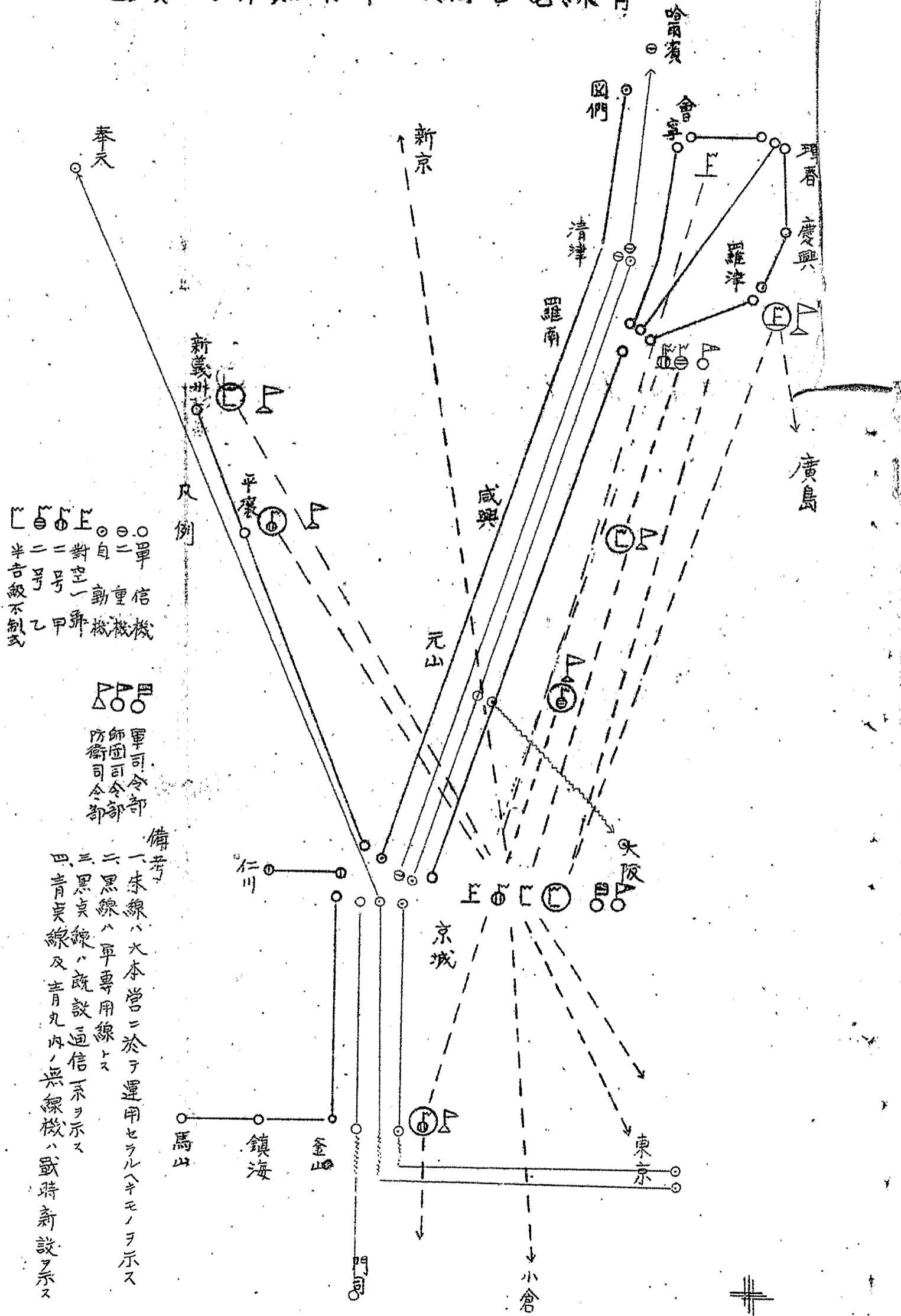
凡例

| | | | |
|---|--------|---|-------|
| ↑ | 情報用 | ○ | 軍司令部 |
| ↓ | 警備用 | △ | 師團司令部 |
| ↕ | 防空用 | □ | 旅司令部 |
| ↕ | 兵站用 | ○ | 師司令部 |
| ↕ | 兵站電話回線 | △ | 旅司令部 |
| ↕ | 防空電話回線 | □ | 師司令部 |
| ↕ | 警備電話回線 | ○ | 旅司令部 |
| ↕ | 情報電話回線 | △ | 師司令部 |

▲ 航空用電話回線
 ▲ 警備用電話回線
 ▲ 防空用電話回線
 ▲ 兵站用電話回線

有線電信及軍用無線網要圖

丰



1021

別冊第一

羅津軍用無線電信所新設ニ關スル要望

羅津軍用無線電信所新設ニ關スル件

一、設置理由

戰時羅津ニ無線電信所ヲ設置シ京城、廣島及關東軍方面トノ交信ヲ實施セントスルハ中央ノ意向ナルモ羅津要塞司令部ハ軍直轄ニシテ平時ヨリ相當量ノ通信ヲ有スルノミナラス既設有線施設亦十分ナラサルヲ以テ之レカ通信連絡確保ニ就キテハ常ニ危候シアル處ナリ然ルニ中央案ノ如ク戰時ニ至リ初メテ急速ニ電信所ヲ設置セントスルモ器材ノ到着或ハ施設ノ實施ニ相當日時ヲ要シ且羅津、京城間ノ地形ハ電波ノ傳播狀況不良ナル等ノ實情ヨリ鑑ミ開戰初頭最モ活躍スヘキ本電信所ノ意義ヲ没却スル虞大ナリ宜シク平時ヨリ之ヲ設置シ敵ノ空襲ト酷寒、烈風等地方ノ特殊性ニ

二 要 領

對應シ得ヘキ施設ヲ具備セシメ且ツ通信實施ニ關シテハ十分ナル訓練ト經驗トニ依リ通信連絡絶對ノ確保ヲ保證スルコト緊要ナリトス

一 羅津要塞内ニ九四式對空一號無線電信機一基ヲ設置シ施設ヲ恒久化ス

二 工事費四万六千円ト概定シ其内譯別紙如シ但シ器材費及維持費ハ含まサルモノトス

羅津無線電信所新設工事費仕譯書

昭和十三年十一月一日調

朝鮮軍經理部

總計金四萬六千五百圓也

本文ノ經費ハ

内 譯

| 名 | 稱 | 構 | 造 | 寸 | 法 | 數 | 單位 | 積 | 單位 | 稱 | 單位 | 單 | 價 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|----|---|----|-------|----|---|--------|---------|
| 送 | 信 | 所 | 平 | 煉 | 瓦 | 造 | | | | 二五〇〇〇 | 平方 | 米 | 五五〇〇 | 一三七五〇〇〇 |
| 受 | 信 | 所 | 全 | 右 | | | | | | 一八〇〇〇 | 〃 | | 五五〇〇 | 九九〇〇〇〇〇 |
| 無 | 線 | 柱 | 三 | 本 | 建 | 送 | 信 | 用 | | 一 | 基 | | 一六〇〇〇〇 | 一六〇〇〇〇〇 |
| 全 | 右 | 受 | 信 | 用 | 二 | 本 | 建 | | | 一 | 基 | | 二四〇〇〇〇 | 二四〇〇〇〇〇 |
| 空 | 中 | 線 | 設 | 備 | | | | | | 一 | 式 | | | 三〇〇〇〇〇 |

| | | | |
|---------|---|---|--------|
| 變換信用簿 | 一 | 式 | 三〇〇〇〇〇 |
| 電氣設備 | 一 | 式 | 三〇〇〇〇〇 |
| 電話設備 | 一 | 式 | 三〇〇〇〇〇 |
| 雜種構築物 | 一 | 式 | 八〇〇〇〇〇 |
| 工場監督費其他 | | | 一五五〇〇〇 |
| 計 | | | 四六五〇〇〇 |

D 結 言

大動脈ノ完成ニハ中央部ノ指示ニ基キ總督府亦銳意努力ノ跡ヲ認ムルモ作戰上ノ要求ト施政上ノ要求トノ調和ニ關シテハ再檢討ヲ要スルモノアリ例ヘハ左ノ如シ

1. 作戰空路ノ不備大ナル現状ニ於テ單ニ警備上使用セントスル利用價值少キ江界著陸場ヲ設定セントスル如キ

2. 作戰幹線トシテ容量激増セル北鮮線ノ強化ニ熱意少ク滿鐵委託經營ノ關係上ニ産業鐵道ノ新設ニ熱中シアル如キ會寧線ヲ通過スル者カ該線ヲ以テ全作戰軍及軍需補給量ノ〇〇%ヲ輸送セントスル計畫ナルヲ知ル時ハ其ノ過重ニシテ線路ノ薄弱ナルニ啞然タルモ

ヒソアハシ

3. 北鮮通信ノ作戦防衛上重要度大ナルニ拘ラス文化展ノ施設ニ走ル如キ等はナリ

其ノ原因多々アラシモ兩者ノ要求ハ常ニ必スシモ一致セス寧ロ背反スルモノ多シ而シテ之カ決定ハ財務當局ナルヲ以テ稍モスレハ施設設備優位ト爲ルモノト考ヘラル之カ爲將來此等主務業務ニ對シ自己ノ要望ト施政ノ希望トヲ檢討シ豫算決定前七月中ニ施策スルノ要大ナルモノアリト考ヘラル

其三 資 源

A 人的資源

一 在鮮在郷軍人約五万ニシテ其ノ遞増率ハ毎年万餘ヲ増加シツツアル滿洲國ノ比ニ在ラス地域ノ廣大産業ノ勃興移民ノ施設等凡ユル

方面ニ於テ動的ノ滿洲ニ對シ著シク遜色アルハ蓋シ止ムヲ得サルモノト謂フヘシ

然レトモ内地人ノ増加ハ管ニ軍ノ組成上重要ナルノミナラス統治ノ根本問題ヲ成スモノト謂フヘク万難ヲ排シ之カ促進ヲ計ラサルヘカラス而シテ之カ唯一ノ途ハ朝鮮鑛業及重輕工業ノ發展ニ在リカクスルコトニ依リ内地ヨリスル莫大ナル軍需補給ヲ輕減シ且速ニ軍需ヲ充足シ得ルノミナラス人的資源豊富トナルニ至レハ自ラ多數ノ兵役關係者ヲ得ヘシ而シテ内地人ニ戶籍法ヲ施行シ以テ永住ノ觀念ヲ養成スルコト肝要ナリ

三 朝鮮人ノ利用

人口二千三百万内地人ノ三分ノ一ニ達スル此ノ大ナル人的資源ヲ

徒ニ死藏スルハ果シテ如何今ヤ文化逐次向上シ見識アリ活動力アル人物續生シツツアリ鐵道局ノ如キ下級者ノ大部殆ント全部ハ鮮人ニシテ當局ハ諸種ノ必要ヨリ内地ヨリノ移入ヲ企圖セルモ内地人的資源ノ現状ニ於テ殆ント望少ナク困難ノ状態ニ在リ平壤兵器製造所職員以外殆ント全部ハ鮮人ナリ今ヤ國威隆々タル帝國ノ下ニ在リテ孜々努力シアルモ國策上果シテ適當ナリヤガカル現象ハ諸方面ニ露出シツツアリ是レ朝鮮統治防衛等ニ重大關心ヲ要スヘキ問題ニシテ而モ一般ニ著意ナク施策ノ見ルヘキモノナシ現状ノ儘推移センカ人口ハ遞増シ人文ハ發達シ而モ因順姑息ノ事大思想ハ國內ニ戀々トシテ盟ニ朝鮮内諸機關ニノミ深ク進入膠著スルニ至リ寒心スヘキ状態ニ陥ル日モ近キニ在リト判斷セラル宜シク宇内

B 動物的資源

一 馬匹資源

ノ大勢國外雄飛ノ要ヲ注入シ内地人ト共ニ東亞大陸ニ活步セシムル如ク施策シ大陸經營ノ爲鮮外ニ在ル鮮人ト鮮内ニ在ル鮮人トノ比ヲ日本本土外ニ在ル内地人ト國內内地人トノ比ニ等シカラシムル如ク指導スルコト肝要ナリ

之カ爲ニハ速ニ徵兵ヲ布キ大ナル活力ヲ與ヘ國軍ト共ニ大陸經營ニ邁進セシムルヲ要ス之カ兵役問題ニ關シテハ別ニ記述ス

ノ馬匹資源ハ悉數ノ状態ニ在リ兩師團ノ管理スル動員馬匹ハ總計約一万八千頭ナリ然リ而シテ在鮮馬匹ハ別紙第一ノ如ク民間保有量ハ約五万二千五百ヲ算スト雖モ之レカ軍用適格馬ハ僅カニ

五千ヲ算スルニ過キス之レニ平時軍隊ニ於ケル保管馬及貸付豫備馬等計四千ヲ加算スルモ尙ホ動員馬數ニ對シ約九千ノ不足ヲ生ス

茲ニ於テ鮮内自給自足ノ根本原則ヲ不滅ノ鑑則トナスニ於テハ朝鮮馬政ノ擴充ハ劃期的努力ヲ以テ促進シ軍ノ絶對要求ヲ充足スヘク強要シ止ムヲ得サルモノハ軍自体ノ施設ヲ要スルモノトス

2 施設

(1) 民間馬事思想ヲ振興シ之カ飼育ヲ向上ヘ之カ爲ニハ徵兵ニ依ル輜重兵特務兵ノ大量採用ヲ最有效最捷徑トス之ヲ實施セサレハ鮮人ノ怠惰ナル性質ト緩漫ナル動作トハ潑刺快活ナル馬匹ノ性質ト相一致シ難ク朝鮮馬産ハ遂ニ百年夢ヲ見ルニ等シ

ガルベシ一セシムルト共ニ朝鮮馬政ノ劃期的擴充促進ヲ期ス
 卽チ初期三年間毎年內馳馬及滿馬各千頭内外ヲ移入シテ播殖
 ヲ圖ル

第四年以後初期成果ヲ檢討シ更ニ促進ス馬格ハ小格驍馬ニ集
 注ス

- (四) 蘭谷牧場ノ生産目標ヲ鮮内軍用馬匹ノ充實ニ集注ス
- (五) 國境警察隊ニ貸付豫備馬ヲ交付ス
- (六) 總督府ニ現役馬政官ノ充足
- (七) 平時保管馬ノ増強

朝鮮馬政ノ爲相當努力ヲ拂フト雖モ土地人情歴史ニ鑑ミルニ
 遂ニ實現ヲ期シ難キモノアリ況ンヤ乘馬砲兵戰馬ノ如キハ到

底朝鮮人ノ資質ニ適合セス故ニ地方馬政ノ重點ヲ小格晩馬ニ
 集注シ此等有能馬ハ平時保管馬トシテ軍ニ保有セントスルモ
 ノナリ其ノ員數別紙第二ノ如ク絶對所要ノモノナリ此ノ實現
 ナクンハ初期作戰ニ投スル朝鮮兵團ノ戦力ハ誠ニ微々タルモ
 ノナルコトヲ肝銘セラレ度

(ハ) 速ニ雄基支部ノ土地ヲ慶源ニ轉換シ約一千頭(一現在維持費一
 頭二百圓ナルモ減少シ得ル見込アリ)ノ補充馬ヲ保有セシム
 右ハ朝鮮馬政ノ向上下反比シ遂次其數ヲ減少スヘキモノトス
 (ト) 總督府施設緩漫ニシテ(ハ)軍ノ施設亦實現セラレサルニ於テ
 ハ軍備充實后ニ於ケル朝鮮兵團ノ編制裝備ハ頗ル劣弱ノモノ
 トホラサルヲ得ス之ノ不足馬補填ハ作戰地ニ於テスルモノト

内地馬整備ニ依ルモノトニ區分セラルル前者ハ充足位置戰況等ニ依ルヘキモ凡ソ困難ナル作業タルヲ免レス故ニ出動日時後ルルモ内地整備ヲ可トスル意見ニツキ九州地方ニ徵馬管區ヲ設定スル件考慮セラレ度徵募管區ノ希望参照セラレ度但シカカル複雑ナル動員業務ハ根本的ニ不可ナルニ付平時施設ノ實現ニ適進セラレ度

ニ牛資源

ノ作戰軍ノ増大ニ伴ヒ後方部隊ノ増加ハ必然ニシテ之ヲ單ニ機械及馬匹ニノミ依存スルハ危険ナリ此ノ際牛ノ利用ハ直ニ胸算ゼラルヘキモノトス朝鮮内牛數別紙第三ノ如ク利用價值大ナルモノアリ唯飼育法ニ蒸飼料ノモノアリ之カ生飼轉向ニ關シ努力指

道ヲ要スルモノナリ

2. 軍用牛研究委員

朝鮮ハ牛多キト滿洲ニ對スル補給容易ナルトニ鑑ミ之カ輻重トシテノ價值訓練之ニ基ク地方指導等常續的研究ヲ遂クル爲委員會ヲ設置スルノ要アリ作戰ニ利用少キ内地牛ノ演習ヲ止メ朝鮮牛ノ研究ニ徹底セラレ度

C 軍需資源

朝鮮産業ハ積年ノ弊政ニ依リ疲弊其極ニ在リシモ統治三十年官民ノ努力ニ依リ逐年發達シ殊ニ近時内外ノ好影響ヲ受ケ躍進ノ一途ヲ辿リ生産額ニ於テ始政當時ニ比シ農産ハ四倍強ノ十億円ニ近ク畜産ハ三倍余ノ四千万円林産ハ七倍ノ一億万円ヲ越エ水産ハ大正四年ノ五倍一

億三千万円ニ上リ鑛産ハ十倍余ノ一億万円ヲ突破スルニ至レリ而シテ今次事變發生以來朝鮮ノ補給量ハ別紙ノ如シ即チ此等豊富ナル原料ヲ原地朝鮮ニ於テ製精シ直接作戦軍ニ補給スルコト肝要ナリ此ノ見地ニ基キ軍ハ左ノ如ク總督府ニ要求ス

一 鐵及鐵鑛石

ノ日本製鐵株式會社清津工場ノ建設ヲ促進スルヲ要ス

理由

日本製鐵清津製鐵所ハ昭和十三年度工事ニ着手スヘキ口約ナリシニ拘ハラズ昭和十三年度モ將ニ終ラントスル今日ニ至ルモ地均サヘ着手セズ工場完成ノ日何日ニ期スヘキカ懸念ニ堪ヘサル

モノアリ

二二

全工場新設ニ伴フ國費ヲ以テスル港灣ノ築設、鐵道能力ノ向上
 及茂山小茂山間ノ鐵道ハ着々實現シツツアリ且隣接セル三菱製
 鐵工場一同シク茂山鐵鑛ヲ使用スルハ既ニ其半部ヲ施工シタル
 ニ對比シ余リニ漫々のナル日鐵當局ノ態度ハ是正ヲ要スルモノ
 ト思料セラル

2. 兼二浦製鐵所ノ能力ヲ増大スルコト

(1) 軌條製造設備

(2) 砲彈鋼製造設備

3. 特殊鋼就中自動車鋼、飛行機鋼其他ノ高級特殊鋼ノ生産設備ノ

擴充ヲ圖ルコト之カタメ高周波冶金ニ依ル特殊鋼増産ノ施設ヲ

促進スルコト

々平安北道慈城附近ニ發見セラレタル鐵鑛ヲ急速開發ヲ圖ルコト

(1) 鑛山企業主体ヲ決定

(2) 製鐵工場ノ企業主体ノ決定及工場所在地ノ選定

(3) 鑛石搬出用鐵道ノ建設

(4) 右諸項決定ニ必要ナル諸調査

朝鮮内未開發鐵鑛山一ニ應茂山ハ慈城ヲ除ク一ノ急速開發ヲ圖ル

コト

(1) 開發會社ヲ新設

(2) 未開發小鐵鑛山ヲ開發會社ニ吸收合併セシム

(3) 日本製鐵會社トノ需給關係ヲ律スルコト

ニアルニウム及マクネシウム

ノ明礬石及礬土頁岩ヲ原料トスルアルミニウム製造工業興隆ニ關シ政府ノ方針ヲ確立スルコト

理 由

明礬石ヲ原料トスルアルミニウム製造工業ハ切角萌芽ヲ見タルモ最近輸入ポークサイドニヨル製造ニ壓セラレテ徹底的打撃ヲ受ケタルタメ製造工場モ他ニ轉業シ明礬石鑛山ハ休山スルノ已ムナキニ至レリ斯クテハ國產原料ニヨルアルミニウム製造ノ發達期スヘクモアラス依テ國產原料ニヨルアルミニウム製造ノ確立ヲ圖ル爲所要ノ方策ヲ樹立スルノ要アリ

ニ其増産計畫ハ答申書ニ依ル

三。軍需品生産工場

1. 砲彈加工下請工業ノ擴充ヲ圖ルコト

差當リ旋盤臺數三千臺ヲ目途トスルコト

2. 京城、釜山附近ニ砲彈擗出、口締機各二組宛ヲ設置セラレ度

四 火 藥

ハ答申書ニ依ル外左ノ新設ヲ圖ルコト

(1) 棉火藥（年産二百五十廳）

(2) 雷コウ（朝鮮カトリット會社ニ新設交渉中）

五 左記諸工業ハ答申案ヲ實施スルコト

石油及其代用品

曹 達

硫 安

工 作 機 械

自動車

鐵道車輛

船舶

航空機

皮革

六、朝鮮ニ於テモ電力ヲ國營トシ諸工業ノ發達ニ便ナラシムルヲ要ス

電力供給ノ豊富ナルコトト料金ノ低廉ナルコトトハ諸工業ノ經營

ニ重大ナル影響アリ然ルニ朝鮮ニ於テハ此ノ點十分ト認め難キヲ

以テ速ニ國營トスルヲ要ス

七、牛皮納入商業組合若ハ會社ノ設立ヲ促進セラレ度

理由

朝鮮皮革株式會社ノ管理移管ニ伴ヒ牛原皮ハ朝鮮軍ニ於テ取得スルコトトナリタルモ牛皮ノ檢收ニハ技術的熟練ヲ要スル關係上此ノ際確實ナル組合若ハ會社ヲ速ニ設立シ牛皮取得上遺憾ナキヲ期スル要アルニヨル内地及台灣ニ於テハ既ニ商業組合ヲ設置シ納入セシメテアリ爲參考

八朝鮮ニ鑑詰用空罐製造會社ヲ進出セシムルヲ要アリ

別紙第一

在鮮馬匹調査表

昭和一三、四、三〇調

| 種類 | 師管別 | | 内地馬 | 鮮馬 | | 滿洲馬 | 計 | 貸付豫備馬 | 平時保管馬 | 計 |
|-------|--------|--------|------|------|-----|-----|------|-------|-------|------|
| | 第十九師管内 | 第二十師管内 | | 在來鮮馬 | 新鮮馬 | | | | | |
| 馬數 | 九一九 | 三三九八 | 九一九 | 三六六九 | 三〇三 | 一四五 | 五〇三六 | 一九二 | 二一九四 | 二三八六 |
| 軍用適格馬 | 五九七 | 二二〇九 | 五九七 | 一〇三九 | 二六二 | 四二 | 一六七八 | 一〇〇 | 二一九四 | 二三九四 |
| 馬數 | 三三九八 | 四三二八 | 三三九八 | 四三二八 | 二六二 | 五四七 | 四七四九 | 八四 | 一八〇八 | 二一八六 |
| 軍用適格馬 | 二二〇九 | 一〇七一 | 二二〇九 | 一〇七一 | 二六二 | 一八六 | 三四六六 | 五〇 | 一八〇八 | 一八五四 |
| 馬數 | 四三二七 | 四六九五 | 四三二七 | 四六九五 | 五六五 | 六九二 | 五三三七 | 二七六 | 三九九八 | 四三七四 |
| 軍用適格馬 | 二八〇六 | 一一一〇 | 二八〇六 | 一一一〇 | 五六五 | 二二八 | 五一四四 | 一五〇 | 三九九八 | 四一四八 |

| | | | | | | |
|---------|------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 合 計 | 七四三二 | 三九七三 | 四九三七九 | 五三三〇 | 五六八〇一 | 九二九二 |
| 戦時所要馬 | 九五三四 | | 八五五三 | | 一八〇八七 | |
| 差引(過不足) | | (五五六三) | | (三三三三) | | (八七九五) |

| 備考 一、本表ノ外歩兵隊ニ於ケル重火器輓馬一隊七〇、八隊計五六〇 ノ戦時要數ヲ更ニ保有希望ス | 合計 | 計 | 20D | | | | | 19D | | | | | 別隊區分 | | 平時保有セントスル乘(輓)馬表 | | | | |
|--|---------|-----------|-----------|-----|-----|------|------------|------------|-----|------|-----|-----|------|-----|-----------------|--------------|---------------------|----|------|
| | | | 計 | 20P | 26A | 28K | 77L 80L | 77L 78L | 計 | 15SA | 19T | 19P | 25BA | 27K | | 75L 76L | 73L 74L | 戰編 | 將校乘馬 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1232 | 608 | 20 | 116 | 364 | 108 | 624 | 27 | 24 | 20 | 81 | 364 | 108 | | 戰編 | 乘馬 (金 六 三) | | |
| | | 1082 | 523 | 13 | 82 | 332 | 96 | 559 | 21 | 15 | 13 | 82 | 332 | 96 | | 平編 | | | |
| | | 150 | 85 | 7 | 34 | 32 | 12 | 65 | 6 | 9 | 7 | 過1 | 32 | 12 | | 差 (數望希有保) | | | |
| | (保有希望數) | 馬 1331 | 輓 1986 | | | 1344 | | | 642 | | | | 1331 | | | 戰編 | 輓(馬) 馬 | | |
| | | 900 | 1140 | | | 900 | | | 240 | | | | 900 | | | 平編 | | | |
| | | 1427 | 431 | | | 444 | | | 402 | | | | 421 | | | 差 (數望希有保) | | | |

別紙第二

別紙第三

朝鮮牛調査表

| 道別 | 飼戸 養數 | 總數 | | | 生飼頭 數總數 % | 滿四歲 以上 | | | 滿四歲以上ニシテ 戰時徵用可能數 | | | 滿四歲 未滿 | | | 備考 |
|------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------------|-----------|---------|---------|---------------------|---------|---------|-----------|---------|---------|---|
| | | 牝 | 牡 | 計 | | 牝 | 牡 | 計 | 牝 | 牡 | 計 | 牝 | 牡 | 計 | |
| 京畿道 | 117,765 | 61,575 | 68,023 | 127,598 | 24 | 28,650 | 35,955 | 64,605 | 31,595 | 17,970 | 26,572 | 32,925 | 32,068 | 64,993 | 四本調査ハ昭和十一年不現在トス 三、生飼頭數ノ總數100%トシテ、差ハ蒸飼料頭數ノ%トス 百七十中隊トナル 一、戰時徵用可能率牝ハ五〇%、牝ハ三〇%ト概定ス 二、一牛ハ一馬ノ能力トシテ(實際ハ馬五十貫積牛七十貫積)約七 |
| 忠清北道 | 69,788 | 46,781 | 26,344 | 73,125 | 92 | 18,696 | 7,802 | 26,498 | 5,608 | 3,901 | 9,590 | 28,085 | 18,542 | 46,627 | |
| 忠清南道 | 65,248 | 47,969 | 21,083 | 69,052 | 100 | 22,912 | 6,679 | 29,591 | 6,873 | 3,339 | 10,212 | 25,057 | 14,404 | 39,461 | |
| 全羅北道 | 52,046 | 31,545 | 23,694 | 55,239 | 7 | 14,329 | 1,027 | 24,356 | 4,299 | 5,014 | 9,313 | 17,216 | 13,667 | 30,883 | |
| 全羅南道 | 117,845 | 86,784 | 49,423 | 136,207 | 41 | 48,679 | 22,650 | 71,329 | 14,604 | 11,325 | 25,929 | 38,105 | 26,773 | 64,878 | |
| 慶尙北道 | 177,363 | 118,106 | 82,341 | 200,447 | 5 | 59,237 | 35,883 | 95,120 | 19,771 | 19,942 | 35,713 | 58,869 | 46,460 | 105,329 | |
| 慶尙南道 | 135,275 | 123,710 | 38,469 | 162,179 | 98 | 69,383 | 14,715 | 84,098 | 22,815 | 7,357 | 28,172 | 54,327 | 23,754 | 78,081 | |
| 黃海道 | 126,949 | 90,803 | 53,793 | 144,596 | 10 | 47,544 | 25,327 | 72,871 | 14,263 | 12,663 | 26,926 | 43,259 | 28,466 | 71,725 | |
| 平安南道 | 88,831 | 77,047 | 35,927 | 114,974 | 24 | 41,634 | 14,219 | 55,853 | 12,490 | 9,110 | 19,600 | 37,413 | 21,708 | 59,121 | |
| 平安北道 | 118,940 | 122,169 | 57,445 | 179,612 | 15 | 62,970 | 22,757 | 85,727 | 18,894 | 11,379 | 30,270 | 59,197 | 34,688 | 93,885 | |
| 江原道 | 138,493 | 128,168 | 61,987 | 190,155 | 40 | 57,952 | 18,851 | 72,803 | 16,785 | 7,426 | 25,611 | 74,216 | 43,136 | 117,352 | |
| 咸鏡南道 | 106,379 | 100,152 | 68,062 | 168,214 | 95 | 52,075 | 33,649 | 85,724 | 18,622 | 16,825 | 32,447 | 48,077 | 34,413 | 82,490 | |
| 咸鏡北道 | 50,968 | 50,976 | 38,875 | 89,851 | 95 | 22,954 | 16,513 | 39,467 | 6,386 | 8,257 | 14,143 | 28,022 | 22,362 | 50,384 | |
| 總計 | 1,364,920 | 1,087,783 | 625,466 | 1,713,249 | | 543,015 | 265,027 | 808,042 | 162,904 | 132,514 | 295,418 | 544,768 | 360,439 | 905,207 | |

別紙

支那事變軍需動員軍需品整備數量調

| 品目 | | 被服 | | | | | | | |
|-------|---------------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|---------------------|
| 單位 | 品目 | 背囊 | 編上靴 | 防寒外套 | 防寒靴 | 防寒脚絆 | 手袋 | 靴下 | 精米 |
| 第 一 次 | 自昭和十三年十月至同十三年三月整備濟數 | 千箇 三〇 | 千組 一〇 | 千箇 五〇 | 千組 四〇 | 千組 四〇 | 千組 三〇 | 千組 三〇 | 千石 四一、五六四 (一九一四) |
| 第 二 次 | 自昭和十三年四月至同十三年九月整備濟數 | 千箇 一〇八 | 千組 一〇八 | 千箇 三八 | 千組 二九 | 千組 二九 | 千組 三〇 | 千組 三〇 | 千石 三、三三〇 (三、三三〇) |
| 第 三 次 | 自昭和十三年十月至同十四年三月整備濟數 | 千箇 一三二 | 千組 一三二 | 千箇 五八 | 千組 四三 | 千組 四三 | 千組 三〇 | 千組 三〇 | 千石 三、〇〇〇 (三、〇〇〇) |
| 計 | | 千箇 三〇 | 千組 三六〇 | 千箇 一四六 | 千組 一一二 | 千組 一一二 | 千組 九〇 | 千組 九〇 | 千石 一、三三〇 (一、三三〇) |

| 考 備 | 糧 | | | | | | | | | |
|--|-----------|-----------|---------|---------|----------------|---------|-------|---------|---------|-----------|
| | 干 草 | 大(燕)麥 | 酒 | 甘 味 品 | 調 味 用 乾 魚 類 | 漬 物 類 | 乾 物 類 | 味 噌 | 醬 油 | 牛 魚 肉 罐 詰 |
| 一、括弧内ハ師團數トス 二、精米、大麦、千袋、乾下ハ實ニ全國ヨリ補給スル量、過半ヲ占ム 三、本表ノ外航空及自動車燃料、兵器彈藥ノ民間製造補給量ハ約一 億万圓ニ上ル | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 | 〳 |
| | 一、九、〇、六、一 | 四、六、七、五、五 | 八、七、〇 | 三、五、六 | 三、〇 | 七、七、六 | 二、九 | 一、五、九、九 | 一、二、九、九 | 三、八、三、〇 |
| | 三、七、七、三 | 二、六、八、四、二 | 九、六、六 | 五、九、七 | 九、〇 | 七、三、〇 | 二、四、五 | 二、一、八、三 | 一、一、二、三 | 四、一、六、〇 |
| | 二、二、六、七 | 二、三、一、五、八 | 二、〇、〇 | 六、〇、〇 | 一、二、〇 | 六、〇、〇 | 二、四、〇 | 一、八、〇、〇 | 九、〇、〇 | 二、二、五、〇 |
| | 二、五、〇、六、一 | 九、六、七、五、五 | 一、九、五、六 | 一、五、五、三 | 二、四、〇 | 二、一、〇、六 | 五、一、四 | 五、五、八、二 | 三、三、二、二 | 一、〇、二、四、〇 |

軍備充實

一、前 言

在鮮二師團ヲ骨子トスル充實案ニハ異存ナキモ左記ノ如ク施設ヲ要スルモノアリ

左 記

一、軍司令部ノ強化

一、師團ヲ軍ノ編合ニ入ルノ件

一、軍兵事部民兵部設置

一、被服、糧秣支廠設置ト陸軍倉庫強化

三、軍司令部強化

睡眠ノ朝鮮ヲ覺醒シ資源開發ニ教學刷新ニ或ハ鐵道港灣ノ建設ニ有

ユル角度ヨリ飛躍セシメツツアル總督府ノ活動ハ近來ノ壯觀ニシテ
更ニ時局ニ鑑ミ企劃部ヲ設置シ防空課ヲ企圖スル等盡ク機宜ニ適ス
ルモノト斷セサルヲ得ス此等機構ノ增強ト從前ノ努力トニ依ル所産
ハ國力ノ重要分子ヲ成形スルモノニシテ此ノ所産ニ軍ノ契入スル程
度ノ濃淡ハ實ニ作戰能力ニ大ナル影響ヲ及ホスモノトス之ヲ歴史ニ
觀ルニ左ノ如シ

鐵道 六代目大正十年頃ヨリ

他ノ凡テノモノヨリ最モ軍ノ希望ス
ル如ク大量敷設セラレアリト觀ラル

通信 適任者嘗テナシ

軍ノ案ニ對シ最モ懸隔アリト考ヘラル

資源 三代目昭和七年頃ヨリ

比較的設備新シキモ相當軍ノ要求方

防空 時ニ専門家アリ

面ニ活動シツツアリ
専門家アル時活動シ忽チ消滅一貫セ
ル指導ナシ

制度 適任者少シ

施政ト併行シ軍ノ希望スル制度立後レノ觀アリ

之ニ依リテ之ヲ觀レハ國軍強化ノ爲必要ナル各部門専門家ノ在否ハ
 作戰能方向上ニ大ナル影響アルモノト判斷セラル眠レル獅子ハ知ラ
 ス歩ミ出シタル獅子ニハ希望スル方向ヲ與ヘサルヘカラス是レ適任
 者ノ増加ヲ要スル所以ナリ

軍ハ總督府ノ強化ニ伴ヒ之カ指導ノ法置ヲ確保セサルヘカラス之カ
 爲在鮮全部隊ヲ傘下ニ入レ恰モ關東軍ノ如ク全部門ヲ掌理セサルヘ
 カラス此ノ際教育參謀ノ適任者ヲ含有スルコト特ニ必要ナリ又政務
 總監ニ對應シ且少將タル兵曹、民兵兩部長統制上中參謀長（少）將トスル
 ヲ要ス斯クシテ編制ヲ強化シ内容ヲ充實シテ先ツ軍ニ威力ヲ及ホシ
 而シテ施政ノ方向ヲ善導シ以テ國軍ノ増強ニ有効ナル協力ヲ得ルモ
 ノトス然レトモ現下人的資源ノ涸渴セル狀況ニ應シ別紙第一ノ編制

ニ満足スルモノナリ

之ヲシテモ不可能ナルトキハ止ムヲ得ス防衛適任者教育適任者各一ノ速急増加ヲ要望ス

三、師團ヲ軍ノ編合ニ入ルヲ要ス

地方指導上軍司令部強化ノ必要ハ第一號所説ノ如シ然リ而シテ軍内關係ニ於テモ現制度ニ於テハ左記ノ如ク今次事變ニ不合理ヲ生來セリ

左記

一、作戰上軍司令官ニ於テ指導シアリシニ拘ラス師團ニ於テハ尙平時的空氣ノ下ニ行動セル傾アリ即チ兵力増加ノ如キ純作戰行動ナルニ拘ラス師團ハ演習ト稱シ歩兵四大隊ヲ戰場後方ニ招致セント企

圖セルコトアル如キ是ナリ

22 意見具申等ハ當然軍司令官ニカスヘキ事項ナルニ拘ラズ軍ト中央部ニ同時ニナスヲ例トセル如キ作戰軍トシテハアリ得ヘカラザル事項ナリ

將來常設師團ハ直ニ鮮外ニ派遣作戰行動スル場合多カルヘキモ其ノ常設師團ノ任務權限ヲ其儘繼承スル留守師團ト軍トノ關係ハ又不合理ニシテ前轍ヲ踏ミ齟齬多カルヘキヲ豫想ス軍ハ北鮮方面ノ作戰防衛行動ニハ大ナル寒心ヲ有ス此ノ際速ニ編合内ニ及ルル如クセラレ度

朝鮮軍司令部編制表

| 區分階級 | 大將 | | 少將 | | 中佐 | | 少佐 | | 大尉 | | 中尉 | | 少尉 | | 下士官 判任文官 |
|------|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|-------------|
| | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | 馬 | 乘 | |
| 軍司令官 | 一 | 二 | | | | | | | | | | | | | |
| 幕參謀部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 僚副官部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 經理部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 軍醫部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 獸醫部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 法務部 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 將校、各部將校、陸軍司法事務官、技師 | | | | | | | | | | | | | | 二七 |
| | (一) 幕僚書記の内三名及經理部書記ハ判任文官トス (二) 技師ノ定員ハ朝鮮軍、臺灣軍、關東軍ヲ通シ十五名トシ内三名ハ高等官ニ等ト爲スコトヲ得又此定員ニ缺員アルトキハ主計佐尉官ヲ以テ充ツルコトヲ得 (三) 技師及技手ハ朝鮮軍、臺灣軍、關東軍及各師團ヲ通シ定員内ニ於テ彼此増減スルコトヲ得 (四) 軍醫部長ハ軍醫總監ヲ以テ充ツルコトヲ得 (五) 軍醫部員ケハ朝鮮陸軍倉庫附藥劑少佐ノ兼勤トス (六) 法務部長、同部員及陸軍録事ハ當該軍軍法會議陸軍法務官及陸軍録事兼勤トス (七) 勅任陸軍法務官ニシテ法務部長ヲ兼勤スル者ハ勅任トス又法務部部員陸軍司法事務官ハ朝鮮軍、臺灣軍、關東軍及各師團ヲ通シ五名ヲ限リ高等官四等ト爲スコトヲ得 (八) 本表ノ外參謀中少佐一名、少佐一名、下士官一名、通譯官一名、通譯生三名ヲ増加スルコトヲ得 (九) 本表ノ外兵器業務ヲ爲ス大尉一名、砲兵長又ハ判任文官三名ヲ、總動員業務ヲ爲ス中少佐一名、判任文官三名ヲ、無線電信業務ヲ爲ス大尉一名ヲ、防謀業務ヲ爲ス中少佐一名、少佐(大尉)三名、下士官、判任文官十名ヲ増加スルコトヲ得 (十) 本表ノ外朝鮮軍司令部及關東軍司令部ヲ通シ大佐一名、中佐一名、少佐一名ヲ増加スルコトヲ得 (十一) 本表ノ外屬表共ハ朝鮮軍兵事部、向其ハ朝鮮軍民政部ヲ屬ス (十二) 本表ノ外豫備馬ハ頭ヲ置ク | | | | | | | | | | | | | | 二九 |

四 朝鮮軍ニ兵事部民兵部ヲ設置ス

(一) 朝鮮軍ニ兵事部ヲ設置シ徵集召集徵發ニ關スル事務ヲ統一管掌セシ
メ又民兵部ヲ設置シ在郷軍人會地方團體ノ指導ニ關スル業務ヲ統一
管掌セシム

(二) 理由

ノ兵事部

鮮内在郷軍人ハ第二補充兵ヲ含ミテ總計僅カ約六万ニ過キス而モ
其分布狀態ハ甚シク偏在シ第二十師團管内ニ於テ四万四千ナルニ
第十九師團管内ニ在リテハ一万六千ヲ算スルニ過キス而モ師團ハ
地勢上現制ヲ變化スル能ハス故ニ各師團ニ於テ各其業務ヲ擔任ス
ト雖モ之レカ動員要員配當ノ爲ニハ常ニ軍ニ於テ相當數量ノ統制

分配ヲ必要トシ二重ノ作業ヲ要スルノミナラス師管内ノ在郷軍人
 ヲ其師團長ノ企圖スル如ク教育指導スト雖モ其僅少ナル戦時得員
 ヲ適材ニ應シ經濟的ニ充當センカ爲ニハ師團管内ノ在郷軍人必ス
 シモ當該師團長ノ隸下ニ參スルコト能ハサル現況ニアリ
 況ンヤ鮮内在郷軍人ノ移動極メテ甚シク之レニ伴フ召集事務ノ迅
 速ナル處理ヲ要スル觀點ヨリ見ルモ鮮内ニ一兵事部ヲ設置シ一手
 ニ掌握統一スルコト絶對ニ必要ナリトス
 故ニ此ノ際此等業務一切ヲ軍ニ於テ實施シ師團ヲシテ專念軍隊ノ
 練成ニ精進セシメテ該方面ノ業務ヲ經減スルヲ有利トス

2 民兵部

現在ハ軍ニ報道部アリ兩師團ニ報道部アリ共ニ手足ナク之カ徹底

ハ多忙ナル軍隊ノ者ヲ利用セサルヲ得ス然リ而シテ朝鮮事情ハ内地ノモノト異ナリ報道大衆ハ僅少ノ内地人ト大量ノ鮮人ニシテ而モ之カ實施ニハ總督府ト緊密ナル協調ヲ要スルモノトス即チ總督府ト對應スヘキ本部機關一箇ヲ有シ之カ隸下機關ヲ主要都市ニ配置シ一貫セル方針ノ下ニ實施スルヲ要ス然ラサレハ前後左右撞著矛盾シテ効果ナキノミナラス逆効果ヲ生スル恐れアリ速ニ機構ヲ改革シ民兵部ヲ設置スルヲ要ス

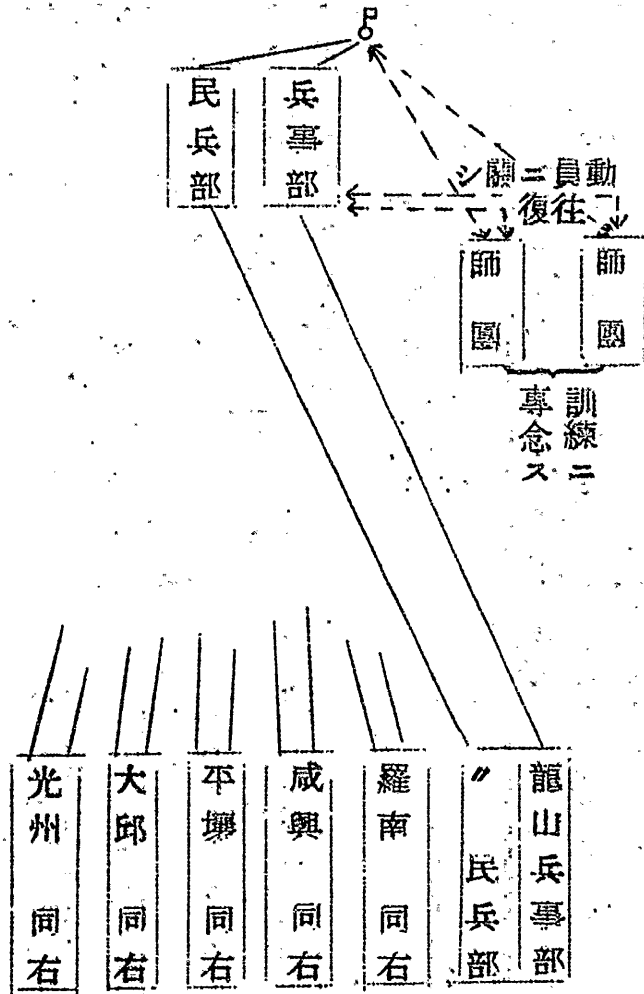
3. 兵事部民兵部本部ハ合一スルヲ可トスルカ如キモ兩者相當ノ業務ヲ有シ一長官ノ運用ハ困難ナルヲ以テ區分セルモ同一軍司令部内ニ在ルコトニ依リ之ヲ緩和セントスルモノナリ

(三) 組織

ノ体系左ノ如シ

2 編 制

兵專部民兵部ノ編制別紙第一第二ノ如シ



別紙第一

朝鮮軍兵事部編制表

| 階級 | 人員 | 備考 |
|------------|--------------|----|
| 少將 | 部長 1 | |
| 佐官 (尉) | 副官 1 員官 6 | |
| 主計尉官 | 1 | |
| 下士官 (判任文官) | 47 | |
| 主計下士官 | 7 | |
| 計 | 73 | |

備考
 一 本表ハ本部一支部六ヨリ成ル
 二 部員ハ當分ノ内囑託ヲ以テ充ツルコトヲ得
 三 本表ノ外雇員一七傭人一五ヲ增加ス
 四 本表ノ外所要ニ應ジ人員ヲ增加スルコトヲ得

別紙第一内譯

兵事部編制表

| 階級 | 區分 | 本部 | 支 | 部 | 計 | 少將 | 佐(尉)官 | 注計尉官 | 下官(文官) | 注計下管 | 雇員 | 備人 | 計 | 備考 |
|----|----|------|---|---|---|----|-------|------|--------|------|----|----|----|---|
| | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 部長 一 | | | | | 副官 一 | 一 | 六 | 一 | 三 | 五 | 二〇 | 一、部員ハ當分ノ内屬ヲ以テ充ツルコトヲ得 二、支部ノ人員ハ所要ニ應シ適宜増減スルコトヲ得 |
| | | | 三 | | | | | 八 | | 一 | 三 | 三 | 一八 | |
| | | | | | | | | 六 | | 一 | 二 | 二 | 一三 | |
| | | | | | | | | 六 | | 一 | 二 | 二 | 一三 | |
| | | | | | | | | 七 | | 一 | 二 | 二 | 一四 | |
| | | | | | | | | 八 | | 一 | 三 | 三 | 一八 | |
| | | | | | | | | 六 | | 一 | 二 | 二 | 一三 | |
| | | | | | | | | 四 | | | 一 | 一 | 一〇 | |
| | | | | | | | | 七 | | | 七 | 九 | 一九 | |
| | | | | | | | | 一 | | | | | 一〇 | |

別紙第二

朝鮮軍民兵部編制表

| | | |
|------------|-----|----|
| 階級 | 人員 | 員 |
| 少將 | 部長 | 1 |
| 佐官 (尉) | 副部長 | 1 |
| 注計尉官 | | 1 |
| 下士官 (判任文官) | | 32 |
| 注計下士官 | | 7 |
| 計 | | 58 |

備考
 一 本表ハ支部一支部六ヨリ成ル
 二 部員ハ當分ノ内囑託ヲ以テ充ツルコトヲ得
 三 本表ノ外雇員備人各一五ヲ増加ス
 四 本表ノ外所要ニ應シ人員ヲ増加スルコトヲ得

別紙第二内譯

民兵部編制表

| 階級 | 區分 | 少將 | 佐(尉)官 | 主計尉官 | 下士官(文判官) | 主計下士官 | 雇員 | 備人 | 計 | 備考 | |
|----|----|------|--------|------|----------|-------|----|----|----|----|-------------------------|
| | | | | | | | | | | 本部 | 支部 |
| | | 部長 一 | 部員 一 二 | | | | | | 一七 | 本部 | 一、部員ハ當分ノ内囑託ヲ以テ充ツルコトヲ得 |
| | 龍山 | | 三 | | | | | | 一三 | 支部 | 二、支部ノ人員ハ所屬ニ應ジ適宜増減スルコトヲ得 |
| | 羅南 | | 二 | | | | | | 一二 | | |
| | 咸興 | | 二 | | | | | | 一一 | | |
| | 平壤 | | 二 | | | | | | 一一 | | |
| | 大邱 | | 三 | | | | | | 一三 | | |
| | 光州 | | 二 | | | | | | 一一 | | |
| | 計 | | 一七 | 一 | 三 | 七 | 一五 | 一五 | 八八 | | |

被服支廠及糧秣支廠ヲ設置シ軍倉庫増化。

朝鮮ニ於ケル軍需資源ノ豊富ナルハ已ニ作戰準備軍需資源ノ部ニ述
ヘタル如シ將來大陸ノ駐屯兵力増大シ而モ戰時朝鮮海峡ノ不安ト全
般的内地發送量輕減ノ爲朝鮮ニ之等ヲ設置シ豊富ナル資源ニ加工シ
陸軍倉庫ヲシテ貯藏前送セシムルコト必要ナリ現在陸軍倉庫ノミヲ
以テ被服糧秣ノ製造ヲモナシアルモ其ノ編制貧弱ニシテ普遍的資源
ノ利用開發ニ力ヲ注キ得サル實狀ニアリ之カ爲倉庫ハ單ニ格納補給
機關トシ別ニ兩支廠ヲ設置シテ製造調辨ヲ實施セシメ大ニ朝鮮ノ資
源ヲ開發セシムルヲ要ス

又平壤及各軍倉庫支廠ヲ増強化シ平時ヨリ特種被服
器具並糧秣（三十個師團分）ヲ集積シ置クヲ要ス

理由

將來戰ニ於テハ朝鮮東海岸ノ海上輸送ハ頗ル急險ナルヘキト初期作
戰軍補給ノ爲平時ヨリ集積シ置クヲ可ナリト認ムルニヨル

六 出師準備等

1. 軍司令部一箇ヲ管理セシメラレ度

朝鮮軍司令部ハ平時軍司令官以下現役者ヲ以テ充當セラレアリ戰
時單ニ朝鮮防衛ノ爲殘留スルハ國軍總力發撞ニ適當ナラス勿ヨリ
一部ノ者ハ留守軍ニ殘留スヘキモ主力ハ作戰軍ニ編入セラルルヲ
合理的ト考ヘラルルニ因ル

2. 朝鮮防衛兵站等ニ必要ナル部隊ハ初期特ニ之ヲ要スルニ鑑ミ之等
部隊ハ可能範圍ニ於テ朝鮮軍管理トセラレ度(後備隊輸卒隊停車

1065

司令部等

3. 軍備充實后ニ生スヘキ歩兵二箇聯隊空兵舎ハ朝鮮人隊設定ノ爲豫
定セラレ度

防 衛

一、前 言

朝鮮ニ於ケル防衛就中防空ハ其ノ位置的關係上將又主要兵站線タリ
 兵站基地の任務ヲ負擔スヘキ立場ニ於テ殊ニ鮮民二千餘万ヲ包藏ス
 ル特種狀況ニ鑑ミ其ノ重要性ハ内地主要地ニ劣ラサルモノト痛感ス
 素ヨリ條例ノ示ス所軍ハ朝鮮防衛ヲ本務トナシアリト雖從來多面的
 任務ト特ニ對蘇作戰、國境警備等ヲ重視シアリテ勢ヒ地上目標ニ偏
 シ防空ニ就テハ稍輕視セラレタル觀チキニシモアラス乃チ之等カ反
 映シ總督府側ニ於テモ各種産業の經濟的文化的施政ニ大重トナリ足
 下ノ國防的施設ニ確固タル基礎ヲ置キ躍進スルノ願厚薄ク道府邑管
 察官ノ片手間ニ委シアルカ如キ以テ知ルヘキナリ

即チ總督府ヲ指導鞭撻シ防空課ヲ新設セシムルト共ニ軍司令部内ニ
 防空關係者ヲ強化シ格段ノ躍進ヲ遂クルヲ要アリ軍部ニ於ケル防衛就
 中防空力ノ強化ニ就テ實現ス期セントスルモノ左ノ如シ

二組織体系

鮮内防空ヲ打ツテ一元トシ一途ノ方針一號令ノ下ニ指揮シ恰モ東部
 中部西部防衛司令部ノ如クナスハ希望スル所ナルモ地理的環境、通
 信交通施設、地方産業ノ關係、防空止要地ノ點在、軍隊ノ配置等ノ
 關係ハ朝鮮ヲ三地區ニ區分スルヲ適當トスヘク即チ全數ヲ統轄シ且
 ツ京城ヲ中心トスル中鮮地區ト接壤ノ特種地帯タル羅南ヲ中心トス
 ル咸鏡北南道地區ト海峽ヲ隔テテ内地ト密接ナル關係ヲ有スル南鮮
 地區トナスハ自然ノ勢ナリ

而シテ現況ニ見ルニ之等地區ハ素ヨリ夫々計畫ノ下ニ實施ニ支障ナ
 キ如ク十二分ノ努力ヲナシツツテリト雖事實内容ニ於テハ人的ニモ
 又施設のニモ貧弱其物ニシテ内地防衛狀況ニ比シ著シク幼稚ナリ
 茲ニ於テ方速ニ強力ナル司令部ノ設置ト指揮施設ノ完備ト更ニ之ニ
 配スル有力ナル防空部隊ノ配屬トヲ必要トスルモノナリ

三 施設

ノ司令部ノ強化ニ就テ

(1) 人員増加

軍司令部、羅南師團司令部及鎮海灣要塞司令部ニハ内地防衛司
 令部ノ如ク防空^{平素ヨリ}ニ專念シ得ル人員トシテ各將校二十三名下士官
 又ハ雇員若干ヲ必要トス

(四) 戦闘司令部施設

各戦闘司令部施設ハ極メテ不備ニシテ辛シテ既設司令部ノ一隅
 或ハ地方公會堂ノ一時的借上等ニ依リ應急的施設ヲナシアルニ
 過キサル狀況ナルニ鑑ミ速ニ永久的建築並施設ヲ要スルモノナ
 之カ爲軍司令部戦闘司令部ハ模範的施設トナシ建物ノ爲約三十
 万円、所内通信其他施設ノ爲約十万円ヲ以テ新築スルモノトシ
 羅南及釜山ノモノハ前記ノ約半額程度ノ經費ヲ以テス
 一註、本經費ハ止ムヲ得サレハ今後鮮内ニ於テ募集シ得ヘント
 豫想スル防空獻金ヲ充用スルモノトシ其使用ニ就テ豫メ中央部
 ノ認可ヲ希望ス

別ニ鎮海要塞司令部ハ各種觀點上速ニ釜山ニ移轉セシムルヲ要ス

2 通信施設

鮮内防衛（空）通信網ニ關シテハ別ニ作戰準備通信ノ項ニ計畫スル所ニ據リ即チ主トシテ軍部指導下ニ總督府ニ於テ擔任セシムルモ止ムヲ得サルモノハ軍部ニテ擔任ス

3. 防空兵器ノ整備及義勇隊ノ使用ニ就テハ防空兵器ハ要塞戰備用ハ別トシテ要地防衛上配當セラレアルモノハ極メテ少數ニシテ到底所要ニ滿タス即チ概ネ別紙ノ如ク増備ヲ希望ス

之カ爲必要ナル兵器ハ止ムヲ得サレハ愛國獻納兵器ヲ優先充當スルモノトシ之カ爲朝鮮ニ於テ獻金セルモノハ總テ鮮内使用ニ充當ス

セシメラレ度蓋シ内地各地獻品ハ要地防衛充當ノ爲統制スル必要
アルヘキモ朝鮮ハ先ツ之ニ充當シ立後レタル朝鮮防衛ヲ遺憾ナカ
ラシムル様絶對必要ナルヲ以テナリ而シテ右兵器ノ操作ニ任スル
者ハ配當軍隊ノ外義勇隊員ヲ充當スルモノトス

右ノ外鐵道運用規定ニ基ク主要軍用列車、交通列車ノ防空車備付
トシテ重機關銃約五十ヲ必要トス（本件ニ關シテハ已ニ數次中央
ニ意見具申中ナリ）

四北鮮國境地帯ノ警備ニ就テ

今次張鈞峯事件ノ經驗ト歩七六國境守備隊ノ琿春駐屯隊移管ニ伴ヒ
重トシテハ豆滿江下流地區ノ警備ニ就テハ特別顧慮ヲ必要トシ義ニ増加
配屬セラレタル憲兵（二十五名）ヲ此目的ノ爲國境ニ接シテ配置ス

ル外地方警備機關ヲ指導強化シ以テ萬全ヲ期シツツアリ

右憲兵ノ豆滸江下流地區配置（甌山、造山、土里龍峴等ニ分駐所又ハ分遣隊ヲ新設又ハ増強ス）ニ伴ヒ左記ノ如ク施設ト増備ヲ必要トス

ノ通信施設（防衛用通信網ノ部参照）

2. 裝備ハ軍ニ於テ可及的ニ辨スヘキモ特ニ増加希望ノモノ左ノ如ク
輕機六、重機一、手榴彈一二〇〇、砲隊鏡六

五 結 言

之ヲ要スルニ前述諸項ノ要否ニ關シテハ今ヤ議論ノ餘地ナク只實施ノ問題トシテ殘サレアリ日支事變ハ素ヨリ先般ノ張鼓峯事件ハ半島官民ニ對シ防空ノ緊要事タルヲ覺醒痛感セシメ漸ク軌道ニ乘リツツア

リ之ヲ契機トシテ百尺竿頭ニ歩ヲ進メ先ンシテ軍部ヨリ内容ヲ充實
シ範ヲ垂レ兩々相俟チテ劃期的強化ニ努メ以テ有事ニ際シ半島防衛
ニ遺憾ナキヲ期セントス

別紙

| 考 備 | 計 | 19D | | | | | | | | | | | 20D | | | | 師團 | 防空兵器所要数 |
|---|-----|-----|---|---|---|----|----|----|----|----|---|----|-----|---------|----|----|----|---------|
| | | 永 | 城 | 上 | 訓 | 阿 | 興 | 會 | 南 | 羅 | 新 | 平 | 仁 | 京 | 要地 | 管區 | | |
| 1. ロヲ附シアルハ要地トシ其他ハ指定外要地及之ニ準スルモノトス 2. 愛國兵器ハ現ニ軍ニ於テ保管シアルモノヲ掲ク以上ノ地尚目下國防献金ニテ注文中ノモノAA十七門附約九十高射身約六十アリ 3. 本表ハ必要ナル最少限ノ数トス | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 100 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 10 | 8 | 4 | 20 | 4 | 10 | 4 | 20 | 並 | 現 | 所 | |
| | 200 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 20 | 20 | 10 | 46 | 6 | 10 | 8 | 40 | 並 | 現 | 所 | |
| | 60 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 6 | 6 | 3 | 9 | 3 | 6 | 3 | 9 | 並 | 現 | 所 | |
| | 2 | | | | | | | | | | | | | | 並 | 現 | 所 | |
| 101 | | | | | | 49 | | | | | | | | (較少) 37 | 並 | 現 | 所 | |

兵 役

一、朝鮮人徵兵問題

學者ノ說ニ依レハ日本人口ハ漸次遞減ノ徵候アリ而モ文化ノ發達産業ノ擴充ハ人口ノ都市集中ヲ促進シ体力逐次劣惡トナリツツアルハ現實ニ帝國カ辿リツツアル状態ト言ハサルヘカラス一國ノ興隆ハ青年ノ意氣ニアリ意氣アル青年ノ多寡ハ平戰兩時一國活躍ノ原動力タラスンハズラス

永ク東亞ノ經倫ヲ現想トシ企圖セル帝國ハ今ヤ已ニ之ニ著手シ所謂非常時下ニ奮闘血闘中ナリ一度心氣遲緩シ中途挫折センカ九俛ノ功ヲ一キニ缺キ遂ニ復タ理想ノ彼岸ヲ眺ムルコトナカラン然リト雖モ廣茫何千里數億ノ人口ヲ包含スル大事業亦難事ト言ハサルヘカラス

滿洲建國五年已ニ優秀ナル國軍ヲ編成シ協力防衛ノ任ヲ遂行シツツ
 アリ獨リ朝鮮ニ在リテハ合邦三十年何等ノ見ルヘキモノナシ然レ而
 シテ人的資源ノ總動員統制ヲ叫ハルルニ當リ國軍ノ組成ト壯丁數ト
 ハ已ニ調和ヲ失ヒツツアル現況ニ於テハ已ニ朝鮮人兵役問題ノ可否
 ヲ論議スヘキ時期ニ在ラス宜シク大局ヨリ一氣ニ之ヲ制定シ軍ノ需
 要ヲ満足セシメ國策遂行ニ遺憾ナカラシムルコト緊要ナリ而シテ採
 用ハ元ヨリ軍ノ必要性ヲ第一義トスヘキモ亦民情教育等ヲ考慮スヘ
 キモノトス

教育度ニ關シテハ適確ノ標準ヲ求ムルコト困難ナルモ國語修得者ニ
 對スル當局ノ調査及將來ノ普及計畫概ネ左ノ如シ

現在就學率

三割

就學希望六割

昭和十七年

六割

昭和二十五年全部就學義務教育トシテ

現在國語ヲ解ス者約一割ニシテ老齡者ニ少ク年少者ニ多シ而シテ適齡階

近ノモノハ概ネ二割内外ト判斷セラル

朝鮮人口二千余万男子一千万トセハ適齡者二十万トナル此ノ内二割約

四万ハ國語ヲ解スモノト判斷セラル合格率六〇%トセハ二万四千ヲ
徵集シ得ヘシ而シテ國語ヲ解スルモノノミ徵兵セラルルモノトセハ爾他ニ及ホス
影響大ナルモノアルヲ以テ解セサルモノト雖相當ノモノヲ徵兵スル
ノ制度ヲ適當トス

軍ノ必要ヨリ此等ヲ差當リ充當スヘキ部隊左ノ如シ

郷土防衛ニ協力スヘキ 防空部隊

| | | | | | | | | |
|------|-----|------|----------|-----------|---------|--------------|-----|-----|
| 恩給加算 | 宿舎料 | 在勤加俸 | 道長官等特別任用 | 總督府文官特別任用 | 判檢事特別任用 | 國籍離脱(國籍法ニ依リ) | 兵役法 | 事項 |
| ア | ア | ア | ナ | ナ | ナ | 認メラル | ア | 内地人 |
| リ | リ | リ | シ | シ | シ | 認メラレス | ナ | 朝鮮人 |
| ナ | ナ | ナ | ア | ア | ア | | | 摘要 |
| シ | シ | シ | リ | リ | リ | | | |
| ハ | ハ | ハ | ハ | ハ | 別紙其一 | | | |
| 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | | | | |

國軍ヲ補備増強スヘキニ輕重兵特務兵
 朝鮮人徵兵問題解決ノ爲ニハ國籍法ノ適用諸法令ノ改廢等根本的研
 究ノ要アリ今日内地人朝鮮人ノ權利義務等ニ關シ相異セル點ヲ略記
 スレハ概ネ左ノ如シ

前項ノ外朝鮮人ノミニ適用スル法令又ハ特別規定左ノ如シ

保安法（光武十一年七月法律第二號）

出版法（隆熙三年法律第六號）

新聞紙法（光武十一年法律第一號）

醫生規則（大正二年總督府令第一〇二號）

朝鮮戶籍令（大正十一年總督府令第一五四號）

民事令第十條 朝鮮人相互間ノ法律行爲

〃 第十一條 朝鮮人ノ親族及相續

〃 第十一條ノ二 朝鮮人ノ戶籍

前述ノ諸項ハ民情教育度其他ニ依リ今直ニ全部ノ改廢ヲ斷行スルハ
實行困難ニシテ却ツテ弊害ヲ生スル恐レアルモノアルヲ以テ之カ處

理ハ慎重ヲ要スト雖モ苟モ國籍法及之ニ關聯セル法令ハ速ニ之カ實
現ヲ要ス

之カ速急實現ノ爲先ツ總督府軍司令部間ニ左ノ委員會ヲ設置ス

委員長 政務總監

委員 審議室主席事務官

地方課長

警務課長

學務課長

高級參謀

次級參謀

御用掛

陸軍法務官

徴兵制度確立困難ナル場合又ハ法制化ニ時間ヲ空費スル場合ニ於テハ直ニ大陸政策ニ影響ヲ及ボスノミナラス時代ノ氣運ニ乘スル機會ヲ逸スル恐レ大ナリ然レトモカカル狀勢ニ陥ル場合ニ於テハ次等策トシテ現志願兵制度ヲ擴大シ總督府豫算ノ訓練所ヲ廢シ一氣ニ陸軍豫算ニ轉換シ國語ヲ解スル者ノ中ヨリ志願セシメ左ノ如ク採用ス

輜重兵特務兵

全自動車手

兵站部隊要員及補充要員トシテ成ルヘク多數

高射砲手

防空監視隊要員

朝鮮防衛ニ要スル人員ヲ三年間ニ教育ス

教育期間四月トシ二ヶ月ハ現訓練所式教育トス

場所輜重兵隊高射砲隊ニ編入ス

要スレハ歩兵隊ニ編入シ四ヶ月教育ノ后支那大陸守備ニ充當ス

以上ハ方針決定ニ伴ヒ更ニ具体的研究ヲ行フモノトス

參考ノ爲朝鮮民族思想變遷概要ヲ述フレハ左ノ如シ

朝鮮民族ハ古來漢民族滿洲民族及大和民族ノ爲或時ハ其領民トナリ
 或時ハ屬邦民トナリ獨立ノ体面ヲ完全ニ保持シタルコトオシ從ツテ
 民族ハ自主獨立ノ氣概ニ乏シク依賴心多ク懶惰ニシテ天惠人與ニ依
 存スルノミニシテ自ラ難局ニ處シテ民族的運命ノ開拓ニ努力スルノ
 氣魄モ無カリシハ歴史ニ明カナルトコロニシテ近世ニ於テモ彼ノ文
 錄、慶長ノ役ニハ明ノ大ニ事ヘ日清ノ役ニハ清ニ依存シ日露戰爭ニ
 ハ露ニ傾キ日韓併合後ハ或ハ英ニ或ハ米ヲ利用シテ我羈絆ヲ脱セシ

トセリ此ノ如ク朝鮮民族カ專大主義思想ニ墮落シタルハ其地理的環境ト四隣ニ強國ヲ有シタル爲累次強者ノ壓迫侵襲ヲ被リタルニ内ニ之ヲ反撥スルノ實力ヲ缺キタルニ因ルヘク此風潮ハ三千年ノ歴史ヲ經タルモノニシテ之ヲ根本的ニ芟除スルハ容易ノ業ニアラサルナリ翻ツテ日露戰役後日本勢力ノ半島侵入ニ慄エンタリシ朝鮮民族ハ排日思想ヲ高調シ事毎ニ反對ヲ稱ヘ反抗的氣勢ヲ揚ケ隱然其勢力ヲ涵養シ居タルカ帝國ノ韓國併合ニ會シ悲憤慷慨其極ニ達シ朝鮮軍隊ハ暴徒ト化シ全鮮的ニ武力平定ノ必要ヲ見ルニ至レリ暴徒鎮定後ト雖モ民族的反感ハ強盛ニシテ陰ニ陽ニ反日的策動ヲ繼續シタルカ偶々歐州大戰後米國大統領「ウイリスン」ノ提唱セル民族自決主義ハ強ク朝鮮人ノ民族意識ニ拍車ヲ加ヘ獨立ノ氣運ヲ増進セリ加フルニ米

國系宣教師ノ煽動ト天道教ノ策動トニ累セラレテ大正八年李太王殿下崩御ヲ機トシ獨立萬歲騒擾事件ヲ勃發セリ

萬歲事件ハ上海及東京ニ於テ畫策セラレ全鮮ニ波及シ鎮定ニ三ヶ月ヲ要シタルカ當時全鮮各地ニ憲兵、警察官配置セラレタルニ拘ラス民心全ク爲政者ヲ離レタル結果一人ノ内通者モナク事前ニ發見スルヲ得サリキ然レトモ騒擾ハ頼ミタル列強ノ支持ヲ得ス何等朝鮮民族ヲ利スルコトナキノミカ却ツテ各國ヨリ朝鮮民族劣等視セララルノ結果ヲ招來シ朝鮮民族ノ期待ハ全ク裏切ラレ強米頼ムニ足ラス民族自決ノ行ハレ難キヲ覺リ民族主義ノミヲ以テシテハ到底獨立ノ目的達成困難ナルコトニ想到セリ於是其策動ハ逐次左傾的傾向ヲ帶フルニ至レリ

然レトモ騷擾事件後長谷川總督辭任シ齊藤總督就任シテ所謂文化政治ヲ布クヤ之ヲ目シテ萬歲騷擾ノ所得ナリト誤信シ全鮮ニ互リ青年同盟權有會等ノ民族的結社擴大シ一層獨立運動ヲ鼓吹セリ即チ内ニ總督政治ヲ中傷シ日本帝國ノ國際的微弱力並國力ノ貧弱及大和民族ヲ劣惡ナリト誹謗宣傳シ愚民ヲ煽動シ外ニ在リテハ滿洲上海沿海州支那米國在任ノ同志ト相結ヒ事端釀成ノ機ヲ窺ヒツツアリタリ

昭和四年偶々全南光州ニ學生事件勃發スルヤ忽チ全鮮ニ波及シタルカ當局ノ彈壓ニ依リ平靜ニ復シ青年同盟及權友會ハ解散セリ

右民族的兩結社ノ解散ハ善化ノ爲ノ解散ニアラスシテ惡化セシカ爲ノモノナリキ即チ農民同盟ハ共產主義ヲ奉シテ結成セラレ農民ノ共產化ヨリ惹イテハ總督政治ノ根本的破壞ヲ企圖セルモノナリキ

於是昭和六年ニハ左傾思想ハ漸次學生、労働者、農民ノ間ニ浸潤シ
 休業罷業、小作争議官廳襲撃租税不納同盟等類出セルカ總督府ノ徹
 底的彈壓ヲ受ケ相々衰微セル觀ヲ呈セリ同年滿洲事變勃發スルヤ鮮
 内兵力激減シタルト國際聯盟ノ會議ニ於ケル帝國ノ情勢不利ナルヲ
 見ルヤ日本ノ敗滅ヲ冒信セル朝鮮人ノ思想大ニ動搖セシモ帝國ノ態
 度強硬ニシテ著々トシテ滿洲國ノ平定ヨリ建國作業ニ進展シ殊ニ軍
 事的ニ於テハ熱河ノ聖戰等人ノ心膽ヲ奪フモノアリタルト米國ノ對
 日態度舊態ヲ改メタルニ敏感ナルト國際聯盟ノ無力ニシテ頼ムヘカ
 ラサルヲ知り列國各々其内情ニ苦ミ其廣言ノ一トシテ實現セシメ得
 サル實情ト歐州ノ政治的動向今ヤ東亞ニ力強キ干涉ヲナシ得サルヲ
 看取シ今ヤ東亞ニ於テ日本以外ニ頼ルモノナキヲ如實ニ感得セシメ

ラレタリ

斯クシテ熱河作戰遂行後ヨリ帝國ノ滿蒙政策禮讓ニ豹變シ恰モ事變
 前ヨリ同政策ニ協調シアルカノ如キ態度ニ出テ或ハ國防獻金ニ或ハ
 皇軍慰問ニ或ハ軍隊ノ送迎ニ進ンテハ國防婦人會ノ創立又ハ入會ニ
 或ハ防護團ノ結成等内地人ニ追隨シ其歡心ヲ需ムルト共ニ朝鮮人亦
 日本人ナリトスル立場ニ於テ滿洲國內ニ於テハ勿論朝鮮ニ於テモ其
 政治的ニ教育的ニ又産業的ニ其地位ヲ向上セント齒ルニ至レリ
 之ヲ要スルニ滿洲事變前ニ於テハ日本帝國ノ實力ヲ輕視シ在鮮五十
 万ノ内地人カ戰勝ノ餘威ト差別的待遇トニ依ル優越感ヲ以テ朝鮮人
 ニ臨ムト彼等亦被壓迫民族ナルカノ如キ歪曲セル感情トハ内鮮人間
 ヲシテ犬猿モ畜ナラサシムルモノアリタリ

之ヲ經濟的ニ見ルモ鮮人ハ内地人ニ土地モ職業モ奪ハレ只管搾取ノ
 材料ニ供セラレツツアリトチ内地人ヲ目シテ資本主義的經濟侵略
 者又ハ吸血鬼ノ如ク思惟シ内地人ヨリ劣等視セララル爲不倶戴天ノ仇敵
 如クニ感シ呼フニ倭奴ヲ以テセリ

然ルニ滿洲事變勃發後ハ在滿鮮人カ皇軍ニヨリテ救濟セララルアリ
 皇軍ノ恩威併行ノ事實鮮内ニ報道セラルルヤ内鮮人精神融和親善ノ
 氣分大ニ醸成セラレ内鮮協力以テ滿蒙問題ノ解決ニ乘出サントスル
 萌芽ヲ見ルニ至レリ今次事變勃發スルヤ此ノ風潮ハ急角度ニ昂進シ
 有ユル方面ニ於テ日本ト協力シ日本ノ躍進ニ沿フテ發展セントスル
 氣運殆ント全鮮ヲ掩フニ至レリ即チ鐵ハ正ニ鍋壺ノ中ニ灼熱シテリ

トイフヘシ

別紙其一

朝鮮人タル朝鮮總督府判事及檢事ノ任用ニ關スル件一明治四十三年十月勅令第七號一

朝鮮人タル朝鮮總督府裁判所職員ノ任用ニ關スル件一明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條一ニ依リ勅裁ヲ經テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條 帝國大學ノ官立專門學校又ハ朝鮮總督府ノ指定シタル學校ニ於テ三學年以上法律學科ヲ修メ卒業シタル朝鮮人ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令施行ノ際現ニ統監府判事又ハ檢事タル朝鮮人ハ特ニ之ヲ朝鮮總督府判事又ハ檢事ニ任用スルコトヲ得

1090

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別紙其二

明治四十三年九月二十九日

勅令第三百九十六號（官報九月三十日）

第一條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ高等官ノ待遇ヲ受クル者ハ特

ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ高等文官ノ職ニ在リタル者又ハ舊

韓國政府ノ高等文官タル資格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官高等試験

委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ文官ニ任用

スルコトヲ得

第三條 朝鮮人ニシテ本令施行ノ際現ニ判任官ヲ待遇ヲ受クル者ハ特

ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第四條 朝鮮人ニシテ舊韓國政府ノ判任官ノ職ニ在リタル者又ハ舊韓國政府ノ判任官タル資格ヲ有シタル者ハ當分ノ内文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條 朝鮮人ニシテ朝鮮總督府ノ定メタル試験ニ合格シタル者ハ之ヲ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別紙其三

明治四十三年九月二十九日

勅令第三百八十三號（官報九月三十日）

朝鮮人タル朝鮮總督府道長官道參與官及郡守ハ文官任用令及高等官官
等俸給令第四條ノ規定ニ拘ラス學識經驗アル者ノ中ヨリ文官高等試験
委員ノ餘額ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別紙其四

明治四十三年三月二十六日

勅令第三百三十七號（官報三月二十八日）

台灣滿韓及樺太在勤文官加俸令

第一條 台灣、滿韓及樺太在勤ノ日本人タル文官ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス但シ台灣島人ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 統監、臺灣總督、關東都督及樺太廳長官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五トシ其ノ他ノ高等官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五以内、判任官ハ十分ノ八以内トシ其ノ額ハ本屬長官之ヲ定ム但シ六級俸以下ノ判任官ノ加俸ハ四十圓迄ニ給スルコトヲ得

第三條 加俸ノ支給ニ付テハ本俸ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 本令ハ在外公館職員及陸海軍軍屬ニハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別紙其五

明治四十三年九月二十九日

勅令第三百九十二號（官報九月三十日）

朝鮮總督府及其ノ所屬官署ノ職員ニハ宿舍料ヲ給ス但シ官舎ニ居住セシムル者ハ此ノ限ニ在ラス

宿舍料ノ額及支給方法ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令ハ朝鮮人タル職員ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ明治四十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

別紙其六

恩給法（大二三、四一三、法律四八號、改正加除昭八、法律五〇、昭一三、全五六）

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ台灣、朝鮮、關東州、樺太、又ハ南洋郡島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

關東局職員ニシテ滿洲國新京特別市ニ在勤スルモノハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ關東州ニ在勤スルモノト看做ス

第一項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年警察監獄職員ニ在リテハ三年其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

三、徵募管區

一、在鮮部隊徵募管區ハ北九州及西中國トスルヲ要ス

鮮内居住者ハ殆ント大部北九州、西中國ノ者ナルヲ以テ在鮮在郷者ノ數ヲ増加スルニ便ナルノミナラス平戰時ノ召集補充團結上至便ナリ

二、在鮮部隊ノ徵兵ハ鮮内居住者ヲ充當スルヲ要ス

平時部隊ノ增強ハ可ナルモ之カ徵兵ヲ現制度ノ如ク放任センカ戰時ノ膨張ハ殆ント望ム能ハス輜重兵聯隊ノ新設ハ可ナルモ僅ニ二ヶ月教育ノ特務兵ヲ内地ヨリ徵兵シ除隊后再ヒ内地ニ歸還セシメ動員時内地師團ニ充當スル如キ六聯隊新設ノ趣旨ヲ沒却シ弊害ノミ滿喫シアルモノト言ハサルヘカラス昭和十三年度徵兵入營狀況別紙

其七ノ如ク鮮内合格者千五百余人中鮮内部隊入營者三百余人ノミナル如キ不合理ヲ表現シアリ條令ノ末ニ拘泥スルコトナク軍組成ノ目的達成ノ爲速ニ改正ヲ要望ス

三 在鮮部隊服役

在鮮部隊ノ現役ハ之ヲ二年四ヶ月トスルヲ要ス
軍備充實后整備ヲ廢止セラレ而モ在營二年制ヲ續行スル場合ニ於テハ軍ハ一年ノ約四分ノ一ノ間一年次分ノ現役ト僅少ナル在郷者トニヨリ戦力ナキ兵團ヲ出動セシメサルヲ得ス縮戦ノ成果ニ及ホス影響ノ大ナルヲ思ヒ本項ノ實現ヲ要望ス

別紙第七

本年度當師團管内壯丁中在鮮部隊
入營シ得ル見込人員ノ件

| 區 | 分 | 人員 | 摘要 |
|--|----------------------|--|----|
| 一師團管内壯丁中鮮内ニ於テ受 檢セシ總人員 | 二七三四 | 本年鮮内居住適 齡者ノ約三分ノ二ニ 相當ス | |
| 二鮮内居住壯丁中内地ニ歸リ受檢 スル者ノ人員 | 鮮内居住適齡 者ノ三分ノ一 | | |
| 三鮮内受檢者ニ七三四名中第一乙種以 上ニ合格セシ人員 | 一五四九 | 本年度第一乙種ノ大 部ノ者ハ入營スルモノト シ計上ス | |
| 四鮮内受檢者中第一乙種以上ニ合格シタル人員ニシ テ當師團ニ配當セラルヘキ第四第十六師管内ニ本 籍ヲ有スル人員 | 一一八 (二五) | 括弧内ノ人員ハ高射砲隊 六隊隊員ニ配當セラルヘキ 見込人員ニシテ第十六師管内 ノ本籍ヲ有スル者 | |
| 五令第七條現役志願兵中在鮮部隊ノ入營ヲ 希望シ甲種トナリタル人員 | 七二 | | |
| 六前第四第五項ノ人員ト雖モ聯隊区司 令官ノ裁量ニ依リ決定スヘキモノニシテ若 干ノ減少ヲ豫想セラル | | | |
| 七第十九師團管内ノ壯丁ハ從來ノ調査表ニ 徴スルニ當師團管内壯丁ノ約三分ノ一ニシテ更 ニ本籍師管ハ第二第八師團ヨリ配賦セラルルモ ノニテ之等ノ地方ニ本籍ヲ有スル在鮮壯丁ハ 極少數ナラン其豫想人員 | 約四〇 約二五 (現役志願) | 上記人員ハ當師團管内受 檢人員ニ比シ約三分ノ一ノ人 員ヲ計上セルモ確實ナル 人員ニアラス | |
| 八右各項ニ依リ本年在鮮壯丁ニシテ在 鮮部隊ニ入營シ得ル見込人員 | 二五五 (八〇) | 括弧内ハ〇名ハ在鮮者中 本籍地ニ依リ受檢セシ人員 中鮮内部隊ニ入營シ得 ル見込人員トス | |
| 九當師團管内在住壯丁全部ヲ鮮内ニテ 受檢セシメタル場合ニ於テ第一乙種以上ニ合格 スヘキ見込人員ハ約二三〇名ニシテ本年度當 師團ニ配賦セラレタル現役兵ノ約三分ノ一ニ 相當ス | | | |

其 他

一 衛生

朝鮮ノ人的資源ハ量ニ於テ豊富ナリト雖質ニ於テハ劣弱ナルヲ以テ
 鮮内鮮人ノ生活ヲ刷新シ體力ヲ向上スルハ刻下ノ急務ナリト認ム
 但保健衛生ニ關スル事項ハ一朝一夕ニシテ悉ク之ヲ刷新解決スルハ
 至難ナルヲ以テ速ニ行政機構ヲ整備シ根本對策ヲ樹立シテ緩急列序
 ヲ稽ヘ逐次實施ニ移行セラレンコトヲ望ム對策ニ關スル主ナル意見
 左ノ如シ

ノ朝鮮總督府内國民保健ニ關スル業務ヲ統轄強化スル爲新ニ一局ヲ
 新設スルヲ要ス

總督府内保健業務ハ現在警務、學務其他各局ニ於テ分擔シ相互連

繫ニ於テ缺クル所アリ各局ニ於ケル主管業務モ亦一層擴充整備スル要アリト認ム

2 鮮人ノ體力ヲ増進セシムル根本對策ヲ樹テシカ爲ニハ先ツ半島ニ特有ナル環境、生活ノ諸要件ヲ生活科學的ニ調査研究スルヲ絶對必要トシ之カ機關ノ設置ヲ要望ス

朝鮮ニ於テハ從來生活環境、衣食住ニ關スル科學的調査研究資料ニ極メテ乏シク重大國策樹立上ノ參考ト爲スニ足ラズ宜シク醫學ヲ主體トシ之ニ關係科學ヲ參與セシムル生活科學的研鑽ヲ遂ケ施設指導ノ合理的の方策ヲ確立スルノ要アリ

科學ヲ無視シ淺薄ナル場當りの處置ハ大綱ヲ紊リ對策ヲ誤ルヲ以テ之ヲ排除スヘキナリ

3. 左記改善事項ヲ逐次實行ニ移スヲ要ス

(1) 學校衛生ヲ振興シテ國民衛生ニ關スル初等教育ヲ實施シ保育指導ヲ合理的ナラシメ同時ニ疾病ニ對スル初療ノ普及ヲ圖ルコト
 作戦上兵站業務ニ從事セシムルコトアルヘキ鮮人ハ先ツ初等教育終了者ヲ以テ充當スルヲ至當トシ之カ爲衛生開發指導ノ重點ヲ差當リ學校衛生ノ振興ニ置クモノトス

(2) 半島民衆ノ衛生思想ヲ普及向上セシムルコト

一般衛生思想ノ向上ハ保健對策ノ根基ヲ爲スモノニシテ且ツ戰時防疫等國防上ノ見地ヨリスルモ速ニ民衆啓發ノ機構ヲ整備シテ目的達成ニ善處スル要アリ

(3) 保健衛生ニ關スル施設ヲ擴充スルコト

(二) 醫療施設ヲ擴充普及セシムルコト

(ホ) 一般民衆體育指導ヲ適切ナラシムルコト

々保健ニ關スル諸問題ハ民衆生活ト密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ同時ニ科學的根據ヲ有スル生活刷新指導ヲ行ヒ且ツ社會施設ノ擴充ヲ必要トス而シテ之等諸施設ノ實施ニ方リテハ其ノ緩急ヲ顧慮シ相互關聯セシムルノ要アリ

ニ鮮内ニ於ケル戰用衛生材料資源ノ倍養

内地ニ於ケル戰用衛生材料ノ資源ハ近時著シク開發セラレタルモ尙内地生産ノ不可能ナルモノ竝資源ノ貧弱ナル品種多量ニシテ國防上寒ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ

茲ニ於テ鮮内ニ於ケル資源ヲ開發シテ之ヲ倍養シ或ハ現在資源ノ増

産ヲ圖リ以テ内地材料ヲ補足スル如ク施設ヲ擴充スルヲ要ス
其ノ要領次ノ如シ

ノ資源不足ナル生薬類ノ試験栽培増産ヲ圖ル爲研究機關ヲ擴充強化
スルコト

2 内地ニ於テ不足セル藥物ヲ増産スル如ク製造工場ヲ擴充スルコト

3 高周波製鐵ヲ利用シテ醫療器械ヲ製造スル爲製造工場ヲ急設スル

コト

4 綑帶材料等消耗品衛生材料ノ製造工場ヲ擴充スルコト

獻金品業務ニ就テ

支那事變勃發以來戰局ノ進展ニ伴フ我朝鮮半島ニ於ケル愛國熱ハ急
激ニ昂揚セラレ獻金品相次イテ殺到シ赤誠愛國ノ熱情眞ニ感動ニ堪

エサルモノアリ而シテ獻金ハ本年十月十八日ヲ以テ約四百五十三万
圓ノ多額ニ達シ其他ノ諸品亦莫大ナル數量ニ上ルノ狀況ニシテ漢口
陷落後ニ於ケル新時局ノ重大性認識ト共ニ鮮内ニ興隆シツツアル
愛國ノ赤心ニ對シテハ半島特種ノ事情ニ鑑ミ益々之カ指導ノ適切ヲ
期シ統後内鮮一如ノ具現ニ遺憾ナカラシム

ニ當軍司令部ニ於テハ滿洲事變勃發ト共ニ副官部内ニ一部課トシテ愛
國部ヲ設ケ専ラ獻納者ノ意志傳達機關トシ併セテ愛國思想ノ涵養ニ
努力シ來リシトコロ支那事變勃發以來獻納件數ノ漸増ニ伴ヒ其ノ機
構ヲ強化シ今日ニ及ヒタルモノニシテ即チ重參謀長ヲ愛國部長ニ高
級副官ヲ其ノ主任トシ又出納官吏業務ハ副官部主計ヲシテ執筆セシ
ムル外後備歩兵大尉一外若干ノ囑託筆生ヲ以テスル隨容ニ依リ愛國

部業務ノ遂行ニ銳意努力シ愛國朝鮮ノ顯現ヲ期シツツアリ

三、本業務刷新ニ關スル主要意見ヲ開陳スレハ左ノ如シ

一、陸軍省ニ於ケル獻金品業務ハ單一ナル機關ヲ以テ統一實施スルヲ

要ス

陸軍省ニ於ケル獻金品業務ノ主管ハ獻金品ノ種類即チ恤兵、國防

等ノ區分ニ依リ其主管ヲ異ニシアリ之カ爲直接獻納者ト接スル軍

師團司令部等ニ於テハ恤兵、國防夫々ニ就テ本省ノ意志ノ付度ヲ

要スルコト多ク恤兵ニ指導スヘキヤ國防ニ指導スヘキヤニ就キ法

規的ニ又事務的ニ之カ執行ニ格段ノ注意ヲ要スルコト多キノミナ

ラス受納處理ニ遲延ヲ來シ引イテハ獻納者側ニ好マシカラサル影

響ヲ與フルノ虞アルヲ以テ恤兵、國防ヲ單一機關トシ併セテ現在

複雑ナル諸規定ヲ統制整理シ更ニ事務ノ簡捷円滑ヲ期セラレシムコトヲ希望ス

2. 軍愛國部ノ機構ヲ更ニ強化スルヲ要ス

當軍愛國部ノ機構ハ前述ノ如ク其主要責任者ハ總テ兼任ナルヲ以テ重大時局ノ進展ニ伴フ一般業務ノ擴大ハ本業務遂行ニ支障尠カラサルノミナラス獻金品業務ノ取扱ニ於テ特ニ不正事故ノ絶對防遏ニハ最モ嚴ナル監視ヲ要スルモノアルヲ以テ此際將校一名ヲ主任トシテ常置シ監督ニ任セシムルノ外出納官吏トシテ主計將校ヲ專任セシメ獻納金品ノ保管、出納ヲ嚴正的確ニラシムルコト必要

軍司令部配當演習費ハ貧弱ニシテ部内將校ノ現戦スラ實施シ得ス各要
塞亦人員強化ニ伴ヒ常ニ不足ヲ訴ヘアリ且重ハ中央ノ希望ニヨリ暗號
競技會通信ノ爲幹部實設演習等ヲ企圖シアルニ付毎年更ニ二千圓ノ増
額ヲ又競技會ノ爲ニハ別途支出ヲ希望スルモ差當リ十四年度ノ爲五千
圓ヲ希望ス